

特別支援

平成 24 年度

# 教育研究員研究報告書

特別支援学校・学級

東京都教育委員会



## 目 次

特別支援学校（知的障害グループ）	3
研究主題「個別指導計画に基づく個に応じた授業展開」	
～個別指導計画と授業をつなげるしくみについて～	
特別支援学校（聴覚障害・肢体不自由・病弱グループ）	27
研究主題「個別指導計画に基づく個に応じた授業展開」	
～集団授業における「評価シート」の活用について～	
特別支援学級	49
研究主題「個別指導計画に基づく個に応じた授業展開」	
～集団指導における個別指導計画活用シートの実践を通して～	



平成 24 年度

# 教育研究員研究報告書

特別支援学校・知的障害グループ

東京都教育委員会

## 目 次

特別支援学校（知的障害グループ）

研究主題「個別指導計画に基づく個に応じた授業展開」

～個別指導計画と授業をつなげるしくみについて～

I 研究主題設定の理由	5
II 研究の視点	6
III 研究の仮説	7
IV 研究の方法	8
V 研究の内容	11
VI 研究の成果	19
VII 今後の課題	22
VIII 資料	24

## 知的障害グループ 研究主題

### 個別指導計画に基づく個に応じた授業展開

～個別指導計画と授業をつなげるしくみについて～

#### I 研究主題設定の理由

特別支援学校においては、児童・生徒一人一人に対して、1年間の指導目標とともに学期間（3～4か月）にわたる各教科等の指導目標や手だてを示した個別指導計画を作成している。障害の状況や学習上の困難さが一人一人異なる児童・生徒に対して、個に応じた学習指導を行うためには、個別指導計画は欠かせないものとなっている。

このように特別支援学校の教育において重要な位置を占める個別指導計画であるが、日々の授業で具体的にどのように活用されているかについて、本部会研究員の所属する学校の実情を話し合ったところ、個別指導計画を踏まえて単元や題材の指導計画を立案する、といった活用のされ方はほとんど行われていないことが明らかになった。さらに、日々の授業における個別指導計画の効果的な活用方法や、個別指導計画の評価の在り方については課題となっていることが分かった。

この背景には、個別指導計画は1年間、あるいは学期ごとの比較的長期間の指導計画であり、日々の授業と直接に結び付けて評価・確認がしにくいことがある。そこで、各所属校で作成している既存の指導計画と日々の授業との関連について改めて整理することが必要であると考えた。特に、個別指導計画と日々の授業とを結び付ける役割を果たす各教科等の単元や題材ごとの指導計画の作成・活用の状況について、現状を把握することが重要であると考えた。

各所属校の現状を調べたところ、全ての学校で年間指導計画や週ごとの指導計画は作成しているが、単元や題材ごとの指導計画の作成は個々の教師に任せられており、学校として統一した書式で単元（題材）指導計画を作成している学校はないという状況が明らかになった。

本来であれば、各教科等の年間指導計画で示した「ねらい」を達成するためには、各学期で取り上げる単元や題材ごとに、個別指導計画に基づく個々の児童・生徒の学習課題や指導の手だて等を具体的に明示した「単元（題材）指導計画」が作成されるべきであり、それに基づいて1単位時間ごとの授業の充実・改善が図られるべきである。

個別指導計画に児童・生徒一人一人の実態や課題に応じた指導目標や手だてが設定されているにもかかわらず、それが日々の授業において効果的に反映されない要因の一つは、「単元（題材）指導計画」を作成・活用することについての教師の意識が十分ではないことにあると考える。「単元（題材）指導計画」の作成が個々の教師に任せられている現状では、それを作成するかしないかが個々の教師の授業力の差となり、それぞれの授業の質や指導の結果等に違いが生じることにもつながっていると考える。

そこで、本研究では、個別指導計画に基づく日々の授業の充実・改善を図るための仕組みをつくるべく、「年間指導計画と1単位時間ごとの授業をつなぐツール」の研究・開発に取り組むこととした。具体的には、題材や単元を構成する1単位時間ごとの児童・生徒一人一人の学習内容や指導目標、指導の手だてを一覧できる「単元（題材）計画シート」を作成することにより、年間指導計画及び個別指導計画に基づく1単位時間の授業の充実・改善を図る

ものである。

「単元（題材）シート」の開発により、個別指導計画の目標達成に向けたプロセス（スマートルステップ）を明確にすことができ、個に応じたより段階的・計画的な指導ができるようになると考える。また、授業者にとっても、「単元（題材）計画シート」を作成する過程において個々の児童・生徒の目標達成に向けた段階的な指導内容や指導の手立てを工夫することは、自らの専門性を向上させることにつながるものと考える。特に、複数の教師がチームを組んで指導を行うことが多い知的障害特別支援学校においては、教師間で授業内容や個別の目標・手立て等の共通理解を図るツールとしても効果的に活用することが期待される。

このように「単元（題材）計画シート」が、個別指導計画や年間指導計画と日々の授業をつなぐ仕組みとして有効に機能し、それが児童・生徒の成長・発達のみならず、教師一人一人の専門性をより向上させる手段となることを企図して、本研究主題を設定した。

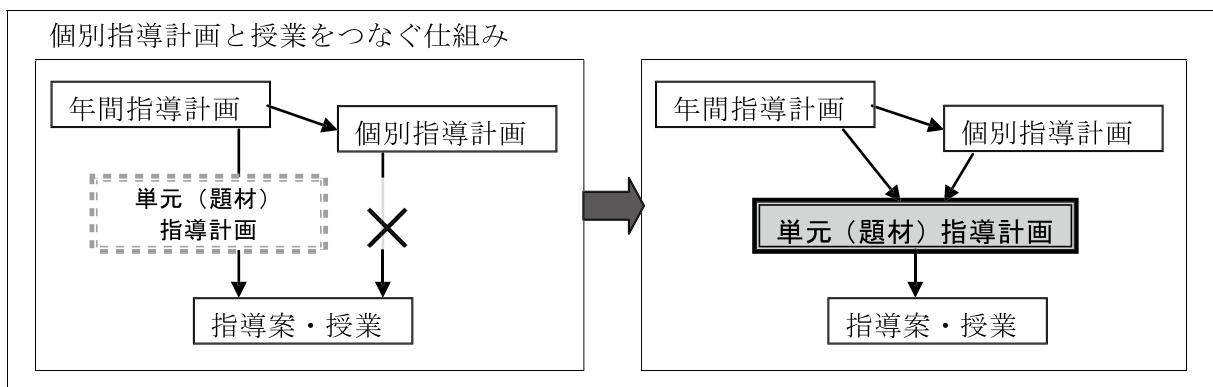
## II 研究の視点

### 1 「単元（題材）計画シート」の開発とその有効性の検証

#### (1) 「単元（題材）計画シート」の開発

個別指導計画が授業に反映されにくい背景として、①日々の授業の計画・評価を行う際に個別指導計画の目標・手立てを参照することが少ない、②年間指導計画に基づく日々の授業が計画的に行われるための単元（題材）指導計画の作成・活用が不十分である、ということがある。このような現状を踏まえ、個別指導計画と日々の授業とをつなぐものとして、「単元（題材）指導計画」の充実に視点を当てた。

単元（題材）ごとの指導内容とともに、個別指導計画の目標・手立てを踏まえた個々の目標を示した「単元（題材）計画シート」を作成することで、個別指導計画の目標・手立てを踏まえた授業展開ができるようになると考えた（下図参照。）。



#### (2) 「単元（題材）計画シート」の導入によって期待される効果

本研究では、「単元（題材）計画シート」の活用により期待できる効果を次のように整理した。

- ① 授業と個別指導計画との関連を明確にできる。
- ② 単元（題材）指導計画の授業時間ごとの学習内容と児童・生徒の目標が系統化される。
- ③ 授業時間ごとの目標達成へのステップが明確にできる。
- ④ 児童・生徒の授業時間ごとの目標を達成していくことで、個別の単元目標（もしくは個別指導計画の目標）の達成が見込まれる。
- ⑤ 各時間の児童・生徒一人一人の目標が明確になることで、個別の目標に応じた評価の観点を具体化できる。また、目標達成のための指導の手立ての改善案も明確になり、指導と評価が一体化した授業改善のサイクルを確立できる。

## 2 「単元（題材）計画シート」の活用による教師の授業力の向上に関する検証

### (1) 段階的・計画的な指導計画の作成において

「単元（題材）計画シート」を作成することで、1単位時間ごとの授業をより段階的・計画的に進められるようになると考える。この「単元（題材）計画シート」を活用することにより、一人一人の実態を把握しながら、それぞれの目標達成に向けた1単位時間ごとの指導目標や手立てを具体的に考えることができるようになり、教師の授業力の向上が期待できる。本研究では、児童・生徒の変容に基づいてこれを検証する。

### (2) 指導における教師間の連携において

「単元（題材）計画シート」は、単元（題材）指導計画と個別指導計画とをつなげるツールであるばかりではなく、複数の教師がチームを組んで指導に当たる際の共通理解を図る手段としても活用が期待される。また、「単元（題材）計画シート」を主たる授業担当者以外の教師に提示し、個別の目標や手立てを共有することで、個別指導計画の目標を意識した指導がより効果的に行われると考える。知的障害特別支援学校の多くの授業がTTで行われていることから、本研究の検証授業においても複数の指導者による授業場面を取り上げることとした。

## III 研究の仮説

本研究では、個別指導計画の目標や手立てを日々の授業に反映させるために「単元（題材）計画シート」の作成と活用が有効であると考えた。そこで、年間指導計画に基づく「単元（題材）計画シート」が計画的・系統的に作成され、その中で段階を踏んだ個別の指導目標や手立てを明確にすることによって、1単位時間ごとの授業を効果的に展開ができるようになると考え、次のように仮説を設定した。

個別指導計画の目標達成に向けた指導のプロセスを明確にするためには、単元や題材ごとに児童・生徒一人一人の指導目標や手立て等を明らかにした「単元（題材）計画シート」を作成し、個別指導計画や年間指導計画と日々の授業をつなげる仕組みづくりが有効である。

## IV 研究の方法

### 1 「単元（題材）計画シート」の研究・開発

#### (1) 個別指導計画の課題把握

本部会研究員が所属する各学校の個別指導計画の書式や作成方法、個別指導計画の活用に関する課題を分析し、個別指導計画と日々の授業との関係を明らかにするとともに、個別指導計画の活用に関する課題を整理した。

#### (2) 「単元（題材）計画シート」の検討

(1)で明らかになった課題に基づき、「単元（題材）計画シート」を作成した。「単元（題材）計画シート」を活用する教科や単元、学習グループの規模等を具体的に想定しながらシートの書式、形態、作成方法の検討を行った。また、小学部から高等部まで共通の書式で活用できるシートの作成が可能であるかどうか検討するために、小学部・中学部・高等部ごとに必要な項目を書き出し、「単元（題材）計画シート」の項目を整理した。

### 2 検証授業の実施

研究仮説を検証するために、次のとおり検証授業を行った。

授業を行う前に教師間で「単元（題材）計画シート」を共有し、児童・生徒一人一人の単元における指導目標や授業ごとの指導目標・手立て、必要な支援等について共通理解を図った。また、授業実施後に、児童・生徒の変容と本シートの活用の効果について評価を行った。

実施校	学年 (児童・生徒数)	教科・単元	時数	備考
A校	中学部 2 年 (5 名)	数学「棒グラフでくらべよう」	6 時間	検証授業 1
B校	高等部 1 年 (22 名)	保健体育（保健分野） 「感染症、生活習慣病とその予防」	4 時間	検証授業 2
C校	小学部 4 年 (12 名)	体育「いろいろな運動をしよう」 （インラインスケート）	9 時間	検証授業 3
D校	小学部 1 年 (4 名)	国語・算数「やりとりを楽しもう」	13 時間	
E校	小学部 2 年 (21 名)	体育「サーキット運動をしよう」	6 時間	
F校	中学部 1 年 (6 名)	社会性の学習 「友達と一緒にゲームをしよう」	8 時間	
G校	中学部 3 年 (16 名)	美術 「銅版画 ドライポイント」	3 時間	
H校	中学部 3 年 (16 名)	音楽「3拍子を感じよう」	12 時間	
I校	高等部 2 年 (7 名)	数学「時刻と時間」	5 時間	

J校	高等部3年 (6名)	家庭「すいとん野菜スープを作ろう」	4時間	
K校	高等部3年 (16名)	保健体育(体育分野)「バレーボール」	4時間	
L校	高等部3年 (9名)	情報「地図と路線の利用について」	8時間	

### 3 検証の方法

#### (1) 児童・生徒の変容に基づく効果検証

事例研究の対象となる児童・生徒を検証授業ごとに1名抽出し、VTR録画や授業観察により「単元(題材)計画シート」に基づく指導に対する児童・生徒の変容を記録・検証した。また、指導の経過を踏まえ、必要に応じて「単元(題材)計画シート」に修正を加え、内容の充実を図った。

#### (2) 授業者を対象としたアンケート調査に基づく検証

「単元(題材)計画シート」を活用した授業を行った12校、33名の教員を対象に、アンケート調査を行った。調査項目は次のとおりである。

- ① 個別指導計画の目標を踏まえて指導ができたか。
- ② 「単元(題材)計画シート」の本時のねらい・手立てを踏まえて指導ができたか。
- ③ 個別の指導目標達成への段階は分かりやすいか。
- ④ 「単元(題材)計画シート」を活用することにより、個別の指導目標を達成するために効果的な働きかけができたか。

「単元(題材)計画シート」の有効性に関する意識を項目ごとにグラフ化し、評価の傾向を把握するとともに、自由意見として挙げられた感想や問題点を参考に、改善課題を検討した。

## 研究構想図

### 現状と課題

- ・個別指導計画の目標・手立てが日々の授業に反映されにくい。
- ・年間指導計画、個別指導計画、週ごとの指導計画は作成しているが、単元計画の作成については個々の教師に任せられているため、各単元の毎時間の授業において個別の目標や手立てが明確にされていないことが多い。



個別指導計画を活用し、日々の授業を充実させる必要がある。  
個別指導計画と日々の授業とを結び付ける手立てを考える必要がある。



### 研究主題 個別指導計画に基づく個に応じた授業展開 ～個別指導計画と授業をつなげるしくみについて～

#### 研究のねらい ～課題解決のために

- ① 個別指導計画を授業に反映させるツール（「単元（題材）計画シート」）を作ることにより、1単位時間あたりの学習指導を効果的に進めることができるようとする。
- ② 「単元（題材）計画シート」を活用することにより、授業ごとの個別の指導目標を明らかにし、単元の到達目標を明らかにする。
- ③ 授業における一人一人の児童・生徒のねらいを、指導に当たる教師間で共有できるようにする。

#### 「単元（題材）計画シート」の開発



#### 仮説

個別指導計画の目標達成に向けた指導のプロセスを明確にするためには、単元や題材ごとに児童・生徒一人一人の指導目標や手立て等を明らかにした「単元（題材）計画シート」を作成し、個別指導計画や年間指導計画と日々の授業をつなげる仕組みづくりが有効である。



#### 研究の方法

- ① 「単元（題材）計画シート」の研究・開発
- ② 検証授業の実施
- ③ 授業者を対象としたアンケート調査に基づく検証



#### 研究の成果と今後の課題

## V 研究の内容

### 1 「単元（題材）計画シート」の開発

#### (1) 「単元（題材）計画シート」の様式

単元の全体像をつかみ、授業ごとの個に応じた目標・手立てを記載するシートとして、次の項目を設定することとした。

- 「教科名・単元名」
- 「単元目標」
- 「対象（学年・グループ）」
- 「学習内容・ねらい」
- 「授業時間ごとの個別の目標と手立て」
- 「個別の単元目標」・「個別指導計画の目標」

個別指導計画の書式や作成方法は学校により異なり、「個別指導計画の目標」と「個別の単元目標」が同じ場合もある。その場合はいずれか一つの目標を記載することとした。

「単元（題材）計画シート」は、年間指導計画及び個別指導計画と日々の授業をつなぐものであるため、年間指導計画や個別指導計画の内容と重複する項目はできるだけ避け、1枚のシートで単元の全体像をつかむことができるような構成を工夫した。さらに、指導の具体的な手立て及び評価は、日々の授業計画である授業案によって行うこととし、年間指導計画と授業案との機能分担を明確にした。

#### 単元（題材）計画シート

<単元計画シート> 作成者								
教科名		単元名	単元目標		対象			
時間	学習内容／ねらい	A		B		C		D
		目標	手立て	目標	手立て	目標	手立て	目標
1 ／	ねらい 内容							
2 ／	ねらい 内容							
3 ／	ねらい 内容							
4 ／	ねらい 内容							
5 ／	ねらい 内容							
個別の単元目標								
個別指導計画の目標								

グループの児童・生徒一人一人の時間ごとの目標や手立てが一覧できる。

単元の目標達成に向けて授業ごとの指導のステップを明確にする。

授業ごとの学習内容と児童・生徒の目標を段階的に示す。

児童・生徒の授業時間ごとの目標を達成していくことで個別の単元目標の達成が見込まれる。

授業と個別指導計画との関連を明確にする。

(2) 「単元（題材）計画シート」の作成・活用の方法

ア 「単元（題材）計画シート」の作成者

「単元（題材）計画シート」は、授業担当者が年間指導計画や個別指導計画を基に作成する。本研究で検討した「単元（題材）計画シート」は、指導時間が4～10時間程度で、4～5名程度までの児童・生徒を対象とした授業を想定したものである。「単元（題材）計画シート」は1枚で単元全体が見渡すことができる構成を考えているが、単元（題材）の長さや学習グループの児童・生徒数によって、書式の枠や幅を変更する、複数のシートを作成するなどの応用も可能であるとした。

作成時期は、年間指導計画の立案後から各学期の授業開始までとし、新たな単元（題材）の授業を開始するまでに計画の見直しと、授業に関わる教師間で内容の把握を行う。

また、同じ教師グループが継続して指導に当たる場合には、担当する児童・生徒の指導目標や手だてを分担して記入するなど、授業の形態や単元の設定の仕方によって様々な作成形態を工夫することができるものとした。

イ 単元（題材）指導計画の途中修正、授業案との併用

「単元（題材）計画シート」に基づいた授業を行う中で、児童・生徒に変容が見られ、目標や計画の見直しが必要になる場合がある。その際は、「単元（題材）計画シート」への追記や「単元（題材）計画シート」の変更を行っていくこととした。また、授業の様子から「単元（題材）計画シート」の修正を行うことで、単元目標に沿った毎時間の授業案が作成できる。このことにより、授業の改善・充実が図られると考えた。

## 2 検証授業1（A特別支援学校）

### （1）検証授業の概要

ア 対象学部・学年

中学部2年生

イ 教科名・単元名

数学 「棒グラフでくらべよう」（全6単位時間）

ウ 事例研究対象生徒の障害の様子

知的障害（愛の手帳3度）

(2) 「単元（題材）計画シート」の作成による指導計画の立案

【単元（題材）に対する個別指導計画の内容】

作成者：授業担当者

教科	指導内容	指導のねらい	指導の手だて・配慮事項
数学	グラフの読み取り	色々なグラフに親しみ、読み取ったり、比較したりできる。	本人の身近な対象を取り上げ、意欲的に考えられるよう支援する。

【単元に関する対象生徒の実態と目標】

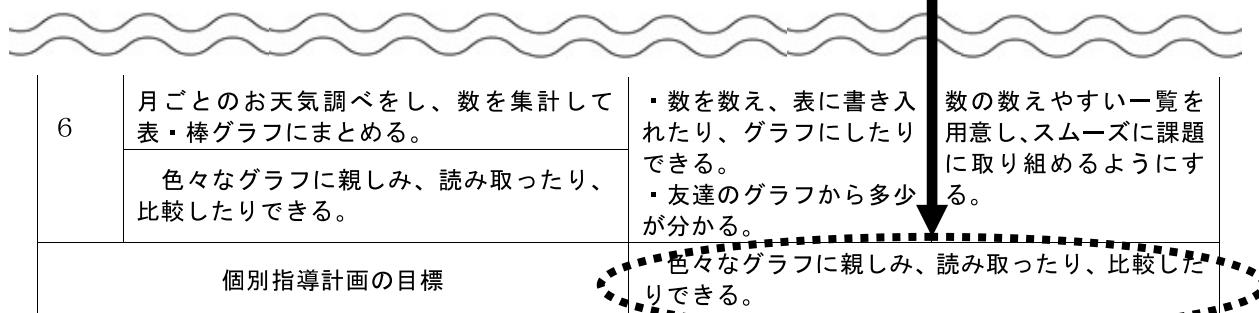
作成者：授業担当者

実態	目標	指導の手だて
<ul style="list-style-type: none"> <li>数をドットに置き換えることができる。</li> <li>5種類ほどの数量の多少を比べることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数を数え、表に書き入れたり、棒グラフにしたりできる。</li> <li>友達のグラフから多少が分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>解き方のパターンを伝え、正解を重ねられるよう支援する。</li> <li>個数、標本数は少ないものからはじめ、段階的に発展させる。</li> </ul>

【単元（題材）計画シート】

作成者：授業担当者

時間	学習内容／ねらい	生徒A	
		目標	手だて
1	ねらい 数を表にまとめ、数をドットで表すことに慣れる。  内容 モノの数を数え、数字で表にまとめる。 ドットで表す。	数を数え、表に数字を入れることができる。ドットで量を示すことに慣れる。	興味のあるイラストを用意し、数を数え、表を埋めることに取り組めるよう支援する。
	ねらい ドットと同様に、マスに色をつけて表すことに慣れる。  内容 モノの数を数え、数字で表にまとめる。 それを、マスに色をぬって示す。	個数をマス(棒)で示すことに慣れる。	自信をもってとりくめるよう、始めは正解をガイドし、徐々に自分で進められるようにする。
3	ねらい 棒グラフを見て、数の大小を比べられる。  内容 数調べの例題で、1位～4位までをよみとる。	棒グラフを見て、数の大小や順位を読み取れる。	読み取りやすいグラフを用意し、棒の高さに注目できるよう支援する。
	月ごとのお天気調べをし、数を集計して表・棒グラフにまとめる。  色々なグラフに親しみ、読み取ったり、比較したりできる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>数を数え、表に書き入れたり、グラフにしたりできる。</li> <li>友達のグラフから多少が分かる。</li> </ul>	数の数えやすい一覧を用意し、スムーズに課題に取り組めるようにする。



(3) 指導の経過と考察

ア 指導の経過と生徒の変容

「単元（題材）計画シート」により、本単元の指導計画を立案する際に個別指導計画の指導目標を確認したところ、個々の課題や目標がそれぞれ異なっており、基礎的な内容を丁寧に学習することが必要な生徒のグループと、発展的な内容に取り組むことが必要な生

徒のグループとに分かれた学習活動を設定する必要があることに気付いた。そこで、授業の前半は一斉指導を行い、後半で2グループに分かれて活動に取り組むように授業計画を立てた。対象生徒は失敗することを嫌がり、難しい課題には学習意欲がもてなくなることがある。集団における授業での配慮に加え、課題別のグループに分かれて学習する時間を設定することで、生徒が意欲をもって学習に取り組むことができた。

生徒は数の大小を理解しており、数字で示された個数などをドットで示すことができていたことから、当初は棒グラフから数値や多少の比較などを読み取ることを目標としていた。しかし、授業を行ってみると、棒グラフの作成はできたが棒グラフが数の大小を示していることの理解が難しい様子だった。そこで、「単元（題材）計画シート」を修正し、棒グラフにマス目をつけて個数を確認しやすいワークシートを使い、数の大小と棒グラフとの関係を確かめる学習活動を新たに設定することにした。

また、毎回の授業の後半で学習グループに分かれ、少人数でじっくりと取り組む時間を取り入れたことで、生徒は進んで棒グラフの作成に取り組むことができるようになり、発問に答える場面も見られるようになった。そこでさらに、友達の作ったグラフを読み取る学習も設定したところ、自信をもって数値の読みとりや大小の比較を行うことができた。単元の指導目標を達成するために計画を修正したことにより、生徒が達成感を味わいながら学習を進めていくことができたことが効果的であったと考える。

#### イ 考察

これまで、年間指導計画や個別指導計画を立てる際には、互いの計画の関連性や整合性を図るようにしていたが、実際に日々の授業を組み立てる段階で、学習グループの生徒それぞれの個別指導計画を見直すことはなかった。今回、「単元（題材）計画シート」を作成したことで、改めて生徒間の実態差を意識できたことは、単元を通して個々の生徒の実態に応じた授業の改善につなげることができたと考える。また、日々の授業を振り返る中で、不足していた配慮事項やより丁寧な指導の必要性に気付き、計画の途中修正を行った。このことにより、生徒が「分かった」と実感できるような授業を進めることができたと考える。

本授業では2名の教師が指導に当たり、グループに分かれる際は、それぞれ担当を決めて指導を行ったが、「単元（題材）計画シート」の活用により授業担当者以外の教師も学習グループの指導の要点や目標を理解しながら指導を進めることができた。「単元（題材）計画シート」を活用することで教師間の連携が図られ、授業の充実・改善を進めることができたと考える。

### 3 検証授業2（B特別支援学校）

#### （1）検証授業の概要

##### ア 対象学部・学年

高等部1年生

##### イ 教科名・単元名

保健体育 保健分野（「疾病の予防1」感染症、生活習慣病とその予防 全4単位時間）

## ウ 事例研究対象生徒の障害の様子

知的障害（愛の手帳4度）

### (2) 「単元（題材）計画シート」の作成による指導計画の立案

#### 【単元（題材）に対する個別指導計画の内容】

教科	指導内容	指導のねらい	指導の手だて・配慮事項	作成者：授業担当者
保健 体育	<保健> 疾病の予防など 教科書：からだげんき	・保健の学習では、生活習慣について学び、ワークシートに正しい解答を書く。	・保健学習では、実際の生活習慣に関連させられるようなワークシートを用いて学習し、さらに理解を深められるようにする。	

#### 【単元に関する対象生徒の実態と目標】

実態	目標	指導の手だて	作成者：授業担当者
活発に発言したり、行動したりすることができる。物事に広く関心をもち、学習することができる。	「疾病」に興味をもって行動し、生活との関わりについて理解して説明することができる。	・ワークシートを活用し、知識を整理して学習する。 ・教師や友達とのやりとりを取り入れ、意欲を促す。	

#### 【単元（題材）計画シート】

時間	学習内容／ねらい	生徒B		作成者：授業担当者	
		目標	手だて		
1	ねらい ・「健康の定義」に関心をもつ。 ・疾病の起り方を考える。 ・疾病を、実生活と結び付けて理解する。  内容 ・「健康の定義」 ・疾病の起り方	健康と疾病について関心を示し、実生活の体験から考慮し、問い合わせや問題に答えることができる。	・学習したファイルを活用する。 ・身近な事例を用いて考えるよう促す。		
	ねらい ・感染症に 관심をもつ。 ・感染症について考える。 ・感染症を実生活と結び付けて理解する。  内容 ・感染症とは何か ・感染症予防の手洗い実践	感染症について関心をもって実生活と結び付けて理解し、問い合わせや問題に答えることができる。	・ワークシートで知識を整理する。 ・友達とのやりとりの場面を取り入れる。		
3	ねらい ・生活習慣病に 관심をもつ。 ・生活習慣病について考える。 ・生活習慣病を、実生活と結び付けて理解する。  内容 ・生活習慣病とは何か ・ワークシートや視聴覚教材	生活習慣病について関心をもち、提示された視覚教材に注目し確認して問い合わせや問題に答えることができる。	・生活に密接した事例を提示する。 ・視聴覚教材でイメージを深める。		
	ねらい ・疾病の予防に 관심をもつ。 ・疾病の予防について考える。 ・疾病を、実生活と結び付けて理解する。  内容 ・疾病予防についての確認問題 ・質問や発表、まとめ	疾病の予防について興味をもち、自分の生活習慣を振り返りながら問い合わせや問題に答えることができる。	・ワークシートを活用する。 ・振り返りシートで確認する。		
個別の単元目標		「疾病」に興味をもって行動し、生活とのかかわりについて理解して説明することができる。			
個別指導計画の目標		保健の学習では、生活習慣について学び、ワークシートに正しい解答を書く。			

### (3) 指導の経過と考察

#### ア 指導の経過と生徒の変容

本学習グループの生徒は、基礎的な内容を十分理解しており、対象生徒は興味・関心のある学習には進んで取り組むことができている。本学習グループは20名以上の大きな集団であるが、集団の中で個々の指導目標に応じた丁寧な指導を行いつつ、生徒同士のやりとりを大事にした学習活動の充実を図りたいと考えた。そこで、「単元（題材）計画シート」を作成しながら、生徒同士の話し合いや生徒自身が主体的に取り組む活動を取り入れる場面を考え、各生徒の実態からペアになって活動する際の生徒の組み合わせを工夫するなど、毎時間の授業展開を工夫した。「単元（題材）計画シート」に基づく日々の授業案においても、単元の個々の指導目標を意識しながら展開を組み立てるようにした。

実際の授業では、生活習慣や疾病に関連した様々な話題が出されたが、「単元（題材）計画シート」であらかじめ単元の目標や個別の指導目標を把握したことにより、単元に関連した話題や活動を一貫して進めていくことができた。生徒は意欲的に学習に取り組み、感染症の予防の学習では感染症の種類をよく理解し、予防法について自分なりに考えて発言することができていた。本シートを作成し、興味・関心のもてる指導を工夫したことにより、授業時だけでなく様々な生活場面で健康に関する関心をもたせることができたためであると考える。また、効果的な手洗いの実践では、プリントで手順を確かめながら丁寧に手を洗い、友達の手洗いについても助言をすることができた。本授業は集団の大きな学習グループであり、授業担当者が直接手洗いの実践を確認することはできなかったが、「単元（題材）計画シート」を作成したことにより、他の教師に指導の意図を伝え、連携して指導に当たることができた。

#### イ 考察

「単元（題材）計画シート」を作成することで、一貫したテーマの下で授業が進められ、それにより単元に対する生徒の目標達成を図ることができたと考える。生徒は、毎時間の授業に意欲的に参加することができ、自分の考えを積極的に発言することができた。これは、「単元（題材）計画シート」の作成により、生徒一人一人のねらいを見直しながら日々の授業を構成・展開することができたことによるものと考える。実際の授業においても、「単元（題材）計画シート」を活用して本時の指導内容や個々の目標・手立てを教師間で共有したことで、大きな集団での指導においても個々の課題に応じた指導を行うことができたと考える。

これまでにも単元（題材）指導計画作成時には、時間ごとの内容や目標を設定してはいたが、「単元（題材）計画シート」により個々の指導目標や手立てを書き出すことで、個々の指導目標を意識した授業展開を計画することができるようになった。また、毎時間の指導目標を見直すことにより、指導の手立ての工夫・改善を加えた次の授業展開を計画するなど、授業の評価・改善を効果的に行うことができたと考える。

## 4 検証授業3（C特別支援学校）

### (1) 検証授業の概要

- ア 対象学部・学年  
小学部 4 年生  
イ 教科名・単元名  
体育（「いろいろな運動をしよう」（インライнстスケート） 全 9 単位時間）  
ウ 事例研究対象生徒の障害の様子  
知的障害

(2) 「単元（題材）計画シート」の作成による指導計画の立案

【単元（題材）に対する個別指導計画の内容】

作成者：授業担当者

教科	指導目標	指導の手だて・留意点
体育	インライнстスケートで安定して滑ることができるようになる。	コーナーの回り方、直線でのスピードの出し方等を練習する。

【単元に関する対象生徒の実態と目標】

作成者：授業担当者

実態	目標	指導の手だて
靴の履き方を理解できていない。靴を履いて立つのがせいいっぱいである。足を前に出して進もうとするので精一杯である。	インライnstスケートで安定して滑ることができるようになる。	スケート靴の履き方は写真つきの手順表を作成する。足首をきつくしめて安定させる。焦らないで滑れるようにグループ別指導を取り入れる。

【単元（題材）計画シート】

作成者：授業担当者

時間	学習内容／ねらい	児童 E	
		目標	手だて
1	ねらい インライnstスケートの履き方が分かる。 内容 自分のサイズに合ったスケートを見つける。	スケート、防具を自分で着用する。	防具は袋にまとめて取り出しやすくしておく。
2	ねらい 自ら進んでインライnstスケートの準備ができる。 内容 スムーズにスケートを履く。	自分の名前を探してスケートを持ってくる。 防具・スケートを自分で装着する。	使用するスケートに名前を示しておく。
	ねらい インライnstスケートを履いて短い距離を滑ることができる。 内容 直線を滑る。	スケートを履いてしっかり立つ。	マットで立つ練習をしてから床を歩くようにする。



9	ねらい インライnstスケートを履いて長い距離を滑ることができる。 内容 コースを回る。	つかまらずに一人でコースを回る。	コースを回る活動の時間を長めに設定し、コースを回る回数を充実させる。
個別指導計画の目標			インライnstスケートで、安定して滑ることができるようになる。

### (3) 指導の経過と考察

#### ア 指導の経過と児童の変容

本単元はスケート靴を履いて行う活動であり、日頃の生活の様子や他の種目への取組の様子から到達目標を想定することが難しかったが、昨年度の引継ぎを受け、指導目標を達成させるには、スマールステップの目標設定と丁寧な個別指導が必要であると考えた。

また、スケート靴を履いて滑る活動ができるだけ長く設定し、練習の機会を増やしたいと考えた。そこで、スケート靴に慣れるまでの指導を丁寧に行った後は、個々の課題に応じたグループによる練習時間を長く設定できるよう単元指導計画を立案した。その際、個別の指導目標や活動の流れをあらかじめ他の教師にも伝え、個別やグループ別の指導の際にそれぞれの目標に応じた指導が行えるようにした。

本児童は、昨年度からの引継ぎではスケート靴を履くことと立つことが精一杯であり、一人で滑ることは難しかった。そこで、まずはスケート靴を自分で履けるようになることを目標とし、写真入りの手順書により毎回履き方を確認できるようにした。また、練習時間ができるだけ多くとれるよう、児童ごとに道具をひとまとめにし、スケート靴に名前を付けるなど、児童自身でスムーズに活動の準備に取り組むことができるようとした。

スケート靴の履き方のポイントを示したこと、児童はすぐに自分自身で履けるようになり、活動に早く取り組めるようになった。またスケート靴が一人で履けるようになったことをきっかけに、自信をもって練習に臨むことができるようになった。指導開始後すぐにバランスよく滑ることができるようになり、当初の予想よりも早く次のステップに進むことができた。単元終了時には、支えや教師につかりながらもコーナーを曲がることができるようになり、大きな変容が見られた。

#### イ 考察

単元（題材）指導計画の立案時には、設定された単元（題材）の指導時間の中で個別の指導目標の達成を工夫しなければならない。児童の実態から、目標の達成が困難であることが予想される場合には、目標の見直しも考えられるが、限られた時間の中でいかに効果的に指導を行うかの工夫が重要であると考える。本単元では、指導目標の達成のためには、児童が進んで活動（練習）に取り組むことと、練習時間をできるだけ確保することが必要であると考え、スムーズに活動に取り組むための工夫を行った。このことにより、児童は当初の予想以上に成長することができた。また、「単元（題材）計画シート」を作成することで、指導時間を意識しながら個の指導目標の達成に向けて授業の工夫を行ったことが児童の変容につながったと考える。

本事例では、当初に想定した指導目標を途中で修正し、更に発展的な活動にも取り組むよう活動内容や手だての変更も行った。児童の現在の実態から、単元終了後の姿を適切に予想し、目標を設定することは教師として必要であるが、児童の成長が予想よりも早い場合は、さらに発展的な内容を指導することも重要である。児童の授業時の反応や毎時間の目標に対する評価を行い、目標や活動の修正・変更を行うことで、より児童の成長や達成感につながる指導ができたと考える。

## VI 研究の成果

### 1 授業改善と児童・生徒の変容

「単元（題材）計画シート」を作成し、毎時間の授業において活用することで各検証授業で述べたような児童・生徒の変容を見ることができた。検証授業により得られた「単元（題材）計画シート」の効果は、大きく次の2点に分けられる。

- ・ 「単元（題材）計画シート」の作成により、集団の中で個に応じた指導を充実させるための指導の工夫を計画的に行うことができるようになった。
- ・ 「単元（題材）計画シート」の活用により、1単位時間ごとの授業の評価を適切に行うことことができ、目標達成に向けた指導計画の修正・改善を行うことができるようになった。

「単元（題材）計画シート」を作成することにより、児童・生徒の実態や個々の指導目標に応じた毎時間の授業計画を立案することができるようになった。

検証授業1では、個別指導計画の指導目標を改めて見直すことで、学習グループを更に2つのグループに分け、それぞれの実態と目標に応じた丁寧な指導の必要性に気付くことができた。また、検証授業3では、「単元（題材）計画シート」を作成することにより、設定された指導時間内で指導目標を達成するための授業計画を立案することが重要であることを改めて理解し、指導の工夫を図ることができた。

このように、「単元（題材）計画シート」を作成することにより、年間指導計画で設定した指導時間と個別指導計画の指導目標とを意識した個々の児童・生徒ごとの単元（題材）指導計画を立案することができ、単元（題材）指導計画に基づく毎時間の授業計画を適切に立案することができるようになったことが、児童・生徒の変容につながったと考える。

また、「単元（題材）計画シート」に基づき、授業を行う中で、児童・生徒の授業時の反応や成長により、今後の授業計画を見直す必要も生じる。検証授業1においては、授業を進めていく中で当初考慮していなかった生徒の課題が明らかとなり、新たな指導内容を追加することで生徒の理解を深めていくことができた。また、検証授業3では、児童の目標到達の速度が予想以上に速く、指導目標や活動内容の変更を行うことになった。

このように、「単元（題材）計画シート」を活用することで毎時間の授業の評価と次の授業の改善が繰り返し行われ、その結果児童・生徒の指導目標が達成されるとともに、教師の授業力の向上にも結びつくと考えられる。また、検証授業2で考察したように、毎時間の授業の評価や次の授業展開の計画・改善が、単元（題材）の指導目標や達成のための段階を常に意識しながら行えたことが「単元（題材）計画シート」を活用したことによる成果であった。

検証授業は全て、2名以上の教師によるチーム指導で行う授業であった。特別支援学校においては、様々な実態や課題の異なる児童・生徒に対し集団の中で個に応じた指導が充実するよう、複数の教師が指導に当たる授業が多くあり、効果的な指導のための教師間の連携は各学校で課題となっている。「単元（題材）計画シート」を活用することにより、授業の中で個に応じた指導や支援が、指導目標や内容を共通理解しながら行うことができたことも成果である。このことは、「単元（題材）計画シート」を作成した授業担当者以外の教師からの次のような感想からも見ることができる。

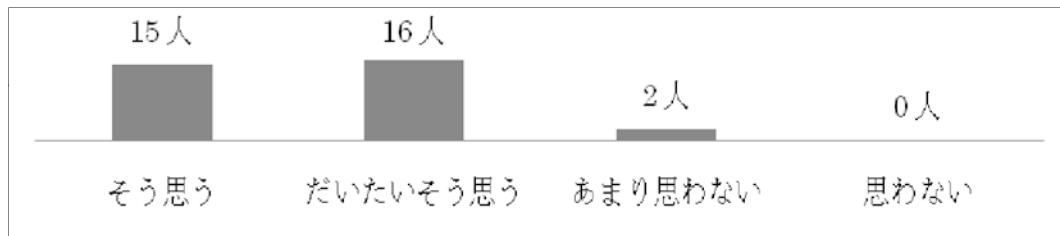
### 授業担当者以外の教師からの意見・感想

- ・個に応じた指導のねらいがはっきりし、授業に反映できた。
- ・単元の途中からの参加でも、段階を理解して本時の指導に臨めた。
- ・個別指導計画の目標や、本時のねらいや手立てを踏まえて指導することができた。
- ・目標に向けての段階的な手立てを工夫することができた。
- ・毎回の指導のねらいが明確なのでスモールステップで計画を立てやすかった。
- ・児童の実態について把握しなければという意識をもつようになった。

## 2 教師の意識

検証授業の終了後、「単元（題材）計画シート」の効果について、実際に授業を行った教師33人にアンケート調査を実施したところ、次のとおりの回答を得た。

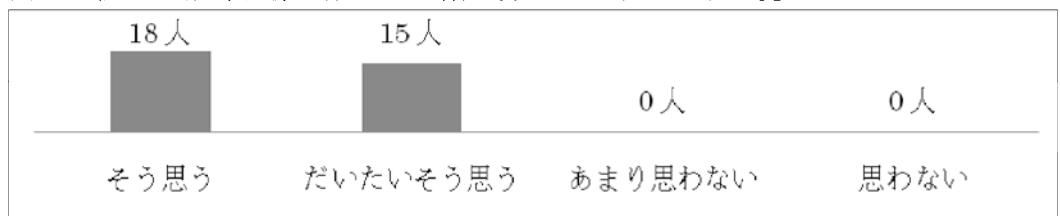
「問1. 個別指導計画の目標を踏まえて指導ができましたか。」



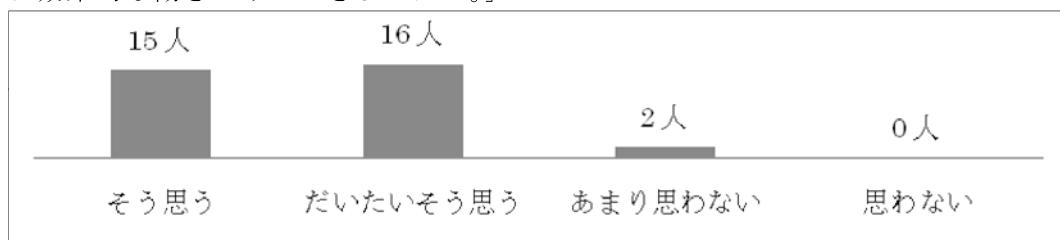
「問2. 「単元（題材）計画シート」の本時のねらい・手立てを踏まえて指導ができましたか。」



「問3. 個別の指導目標達成への段階は分かりやすいですか。」



「問4. 「単元（題材）計画シート」を活用することにより、個別の指導目標を達成するため効果的な働きかけができましたか。」



また、自由意見欄には次のような記述があった。

- ・ 単元（題材）指導計画を作成する過程で、一人一人の毎時間の目標や手立てを明確にすることで、単元の授業の組み立てを綿密に計画することができ、より丁寧な指導を行うことができた。
- ・ 「単元（題材）計画シート」を用いることで事前に他の教師に分かりやすく説明することができ、一緒に授業を行うそれぞれの教師が個々の生徒の力を引き出す指導をするのに効果的であることが実感できた。
- ・ 授業ごとに目標や手立ての見直しは必要ではあるが、目標達成までのステップに見通しがもて、授業を組み立てるのに役立った。
- ・ 単元と単元の組み立て方についても考えることができ、年間指導計画の改善につながる。
- ・ 単元全体の構成や生徒の目標のステップが分かりやすく、指導が行いやすかった。
- ・ 言葉だけの説明・確認より、「単元（題材）計画シート」を示される方が授業の展開や目標を理解しやすかった。

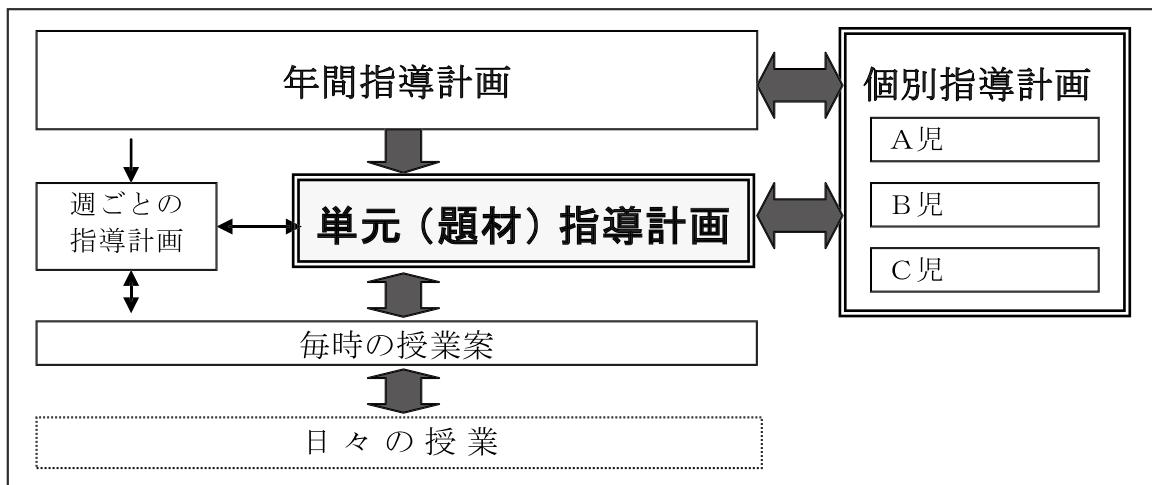
「単元（題材）計画シート」は毎時間の授業の展開とともに、児童・生徒の毎時間の目標や手立てを一覧で示すことができ、単元（題材）の全体像が理解しやすいという利点がある。このことにより「単元（題材）計画シート」を作成した授業担当者以外の教師も、単元の全体像をイメージしながら、効果的な指導を工夫するようになったことが分かる。

「単元（題材）計画シート」に記載のない内容について補足説明を行うなど事前の打合せを行うことで、教師間の連携を深めることができたとの報告もあり、「単元（題材）計画シート」の活用の工夫により、効果的な教師間の連携が期待できると考える。

「単元（題材）計画シート」により、教師の意識が年間指導計画や個別指導計画に向けられ、個に応じた日々の授業の充実のためにそれぞれの指導計画を活用することの重要性に気付くようになったことも成果であった。

### 3 研究成果のまとめ

学校で作成される各種の指導計画と日々の授業との関連を、本研究の成果に基づいて次の図のとおり整理した。このように、年間指導計画や個別指導計画と日々の授業とをつなぐツールとして「単元（題材）指導計画」を作成・活用することで、児童・生徒一人一人の個別目標の達成に向けた指導のプロセスを明確にすることができます。本研究において開発した「単元（題材）計画シート」は、その一つの例である。各学校においては、本研究を参考に、自校の実践に応じた「単元（題材）指導計画」を工夫し、日々の授業の充実に役立てることが望まれる。



※太い矢印で示した部分が本研究で着目した関係

## VII 今後の課題

### 1 「単元（題材）計画シート」の改善と活用の工夫

「単元（題材）計画シート」に対するアンケート調査の結果は概ね良好であり、作成・活用に対する効果が認められたが、一方で「あまり思わない」という回答もわずかながら見られた。「教師間で日常的に情報交換ができているため、「単元（題材）計画シート」を活用しなくても指導目標や手だてを共有できているから」という理由が1件あった。しかし、多くは作成・課題に関する次のような意見であった。

- ・ アセスメントや障害特性など、「単元（題材）計画シート」には記載箇所がない項目も授業づくりには必要なので、自由記述欄があると良い。
- ・ 作成するのがたいへんだと思った。
- ・ 見やすさ・作成の負担軽減を考え、簡略的な「単元（題材）計画シート」作成を目指したため、手だて等、全ての内容は書き切れなかった。
- ・ 文章量が多いと読むのが負担に感じる。

「単元（題材）計画シート」を日常的に作成し、教師間で共有しながら活用していくためには、作成や活用に対する負担はできるだけ軽くする必要がある。「単元（題材）計画シート」の様式の作成に当たっては、各項目数や記入量をできるだけ少なくし、負担を感じないよう工夫したつもりであったが、児童・生徒ごと、時間ごとの指導目標や手だての入ったシートを見て、「文章量が多い」と感じる教師が少なからずいたことが分かった。また一方で、指導に必要な内容が書き切れないため、項目数を増やしたほうがよいという意見もあった。

「単元（題材）計画シート」の様式は、1枚で全ての児童・生徒の時間ごとの指導目標や手だてを確認することができるよう作成している。しかし、対象の児童・生徒数が多く、1枚のシートに作成できない場合は、シートの枚数を増やすこともできる。3名以上の教師が指導に当たる場合は、課題別の少人数グループごとにシートを作成し、主たる授業担当者以外の教師は、担当する少人数グループの児童・生徒の「単元（題材）計画シート」のみを確認する、といった工夫も考えられる。「単元（題材）計画シート」の効果的な活用については、今後実践を積み重ねて更に工夫・改善していくことが必要であると考える。

また、本研究で実施した検証授業では、個別指導計画の作成と「単元（題材）計画シート」の作成は同一の教師が行った。しかし、学校現場では個別指導計画の作成者と授業担当者が異なる場合も多くあり、そのために授業計画に個別指導計画の目標が反映されにくいことも課題となっている。今後は、個別指導計画の作成者と授業担当者が異なる場合の「単元（題材）計画シート」の作成・活用についても検証を行う必要がある。

## 2 「単元（題材）計画シート」の定着に向けて

本研究の成果の活用と普及に向けて、次のような方法が考えられる。

- (1) 所属校において研究員が率先して「単元（題材）計画シート」を活用し、年間指導計画や個別指導計画を踏まえた日々の授業づくりの在り方に関するモデルを示す。
- (2) 校内ネットワークの掲示板を活用し、本研究報告書や「単元（題材）計画シート」の書式等を掲載し、研究の成果を伝えていく。
- (3) 研究部と連携し、校内の初任研修及び2・3年次研修において、本研究の成果を若手教師に伝達していく。

なお、(1)(2)については研究員が個人で取り組める内容であるが、(3)のように学校全体での活用に関しては、組織的な取組が必要である。「単元（題材）指導計画」の作成・活用は、個に応じた授業の充実という視点からも、教師の授業力の向上という視点からも、各学校において取り組まれるべき課題である。各所属校において、学校としての組織的な取組を求めていきたい。

「単元（題材）指導計画」の新たな書式の提案となった本研究は、今後も実践を積み重ね、課題や改善点を明らかにしていく必要がある。「単元（題材）指導計画」の作成・活用は、東京都教育委員会としても重要課題として各学校に充実・改善を求めているものであり、今後本研究が更に発展し、より効果的な「単元（題材）指導計画」がつくられることを期待する。

## VIII 資料

資料1 「単元（題材）計画シート」書式

教科名	単元名	単元目標		対象		D
		A 目標 手立て	B 目標 手立て	C 目標 手立て	D 目標 手立て	
時間 1 ／	学習内容／ねらい ねらい 内容					
2 ／	ねらい 内容					
3 ／	ねらい 内容					
4 ／	ねらい 内容					
5 ／	ねらい 内容					
個別指導計画の目標						
備考						

<単元計画シート> 作成者

資料2 「単元（題材）計画シート」の記入例

教科名	家庭	単元名	すいとん野菜スープ	単元目標	自分から意欲的に取り組むことができる。 両手を使って調理する。	対象	○学部〇年 ○グループ
<b>生徒Aについて縦に記入する。</b>							
時間	学習内容／ねらい	A	B	目標	目標	目標	手だけ
1 9/7 ねらい ・道具の使い方に慣れる。 内容 ・生地の感触を知る。 ・分担された素材を切る。 ・両手を使って団子を作る。	手元をよくみて取 り組む。手の平で丸 める。 ・道具を使つて団子を作 る。面手を使つて団子を作 る。	手だけ 切る、丸める際は 教員が手を添えて 一緒に行なう。 カードを提示す る。	手だけ 切る、丸める等手 の自発的な動きを 促すように、教員 が手を添えてきつ かけをつくる。	手だけ 見本を意識して切 る。生地を自分でめ て作ろうとする。	手だけ 見本を意識して切 る、丸める等手 の自発的な動きを 促すように、教員 が手を添えてきつ かけをつくる。	授業ごとの生徒A についての手だけ のポイントを具体的 に記入する。	到達点を見据えて、 段階的にステップ アップしていくよう に、個々の目標や 手立てを考えてい く。また、個々の目 標や手立てに見直 しが必要な場合、途 中修正していく。
2 9/14 ねらい ・道具の使い方に慣れる。 内容 ・自分で生地を丸める。 ・分担された素材を切る。 ・両手を使つて団子を作 る。	落ち着いて取り組 む。材料などを見て自 分から取り組もう とする。	落ち着いて取り組 む。材料などを見て自 分から取り組もう とする。	写真カードなどを 具体的に提示し、 意欲を高めながら 更に自発的な手の 動きを促す。	手だけ 落ち着いて取り組 む。材料などを見て自 分から取り組もう とする。	手だけ 落ち着いて取り組 む。材料などを見て自 分から取り組もう とする。	授業ごとの授業記 入する。	授業ごとの生徒Aのねらいを 記入する。
3 9/21 ねらい ・道具の使い方に慣れる。 内容 ・自分がら進んで成形する。 ・分担された素材を切る。 ・両手を使つて団子を作 る。	ねらい ・道具を使つて団子を作 る。面手を使つて団子を作 る。	手だけ 落ち着いて取り組 む。材料などを見て自 分から取り組もう とする。	手だけ 落ち着いて取り組 む。材料などを見て自 分から取り組もう とする。	手だけ 落ち着いて取り組 む。材料などを見て自 分から取り組もう とする。	手だけ 落ち着いて取り組 む。材料などを見て自 分から取り組もう とする。	授業ごとの授業記 入する。	授業ごとの生徒Aのねらいを 記入する。
4 ねらい ・学習内容を記入する。	授業日ごとのねらいと 学習内容を記入する。	授業日ごとのねらいと 学習内容を記入する。	授業日ごとのねらいと 学習内容を記入する。	授業日ごとのねらいと 学習内容を記入する。	授業日ごとのねらいと 学習内容を記入する。	授業日ごとのねらいと 学習内容を記入する。	授業日ごとのねらいと 学習内容を記入する。
5 ねらい ・単元の授業回数 内容 ・授業を実施する日	個別の単元目標	個別の単元目標	個別の単元目標	個別の単元目標	個別の単元目標	個別の単元目標	個別の単元目標
	・落ち着いて取り組み、材料などを見 て自分から取り組もうとする。	・見通しをもつて落ちついて自分から進 んで取り組む。 ・衛生に気をつけて参加する。	・見通しをもつて落ちついて自分から進 んで取り組む。	・見通しをもつて落ちついて自分から進 んで取り組む。	・見通しをもつて落ちついて自分から進 んで取り組む。	・見通しをもつて落ちついて自分から進 んで取り組む。	・見通しをもつて落ちついて自分から進 んで取り組む。

# 平成24年度 教育研究員名簿

## 特別支援学校

### (知的障害グループ)

学 校 名	職 名	氏 名
都立葛飾特別支援学校	主任教諭	渡辺 浩子
都立王子特別支援学校	教 諭	西田 恵理子
都立多摩桜の丘学園	主任教諭	○高橋 民幸
都立田無特別支援学校	主任教諭	石原 徳子
都立清瀬特別支援学校	主任教諭	篠原 正樹
都立水元特別支援学校	主任教諭	◎小原 馨
都立中野特別支援学校	主任教諭	湊 映子
都立町田の丘学園	教 諭	池田 めぐみ
都立羽村特別支援学校	教 諭	武山 卓
都立八王子特別支援学校	教 諭	添田 和久
都立小金井特別支援学校	主幹教諭	○石塚 くに子
都立南花畠特別支援学校	主任教諭	小山 賢一

◎世話人 ○副世話人

[担当] 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課

指導主事 西岡 陽子

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課

指導主事 井原 優

平成 24 年度

# 教育研究員研究報告書

特別支援学校

聴覚障害・肢体不自由・病弱グループ

東京都教育委員会

## 目 次

特別支援学校（聴覚障害・肢体不自由・病弱グループ）

研究主題「個別指導計画に基づく個に応じた授業展開」

～集団授業における「評価シート」の活用について～

I 研究主題設定の理由	29
II 研究の視点	30
III 研究の仮説	30
IV 研究の方法	30
V 研究の内容	33
VI 研究の成果	44
VII 今後の課題	45

**聴覚障害教育・肢体不自由教育・病弱教育グループ 研究主題**  
**個別指導計画に基づく個に応じた授業展開**  
～集団授業における「評価シート」の活用について～

## I 研究主題設定の理由

平成21年3月に告示された特別支援学校学習指導要領では、その総則において「各教科等の指導に当たっては、個々の児童又は生徒の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成すること。また、個別の指導計画に基づいて行われた学習の状況や結果を適切に評価し、指導の改善に努めること」と明記され、個別指導計画は特別支援学校の教育において重要な位置を占めるものとなった。このことから、都立特別支援学校には、各教科の指導にあたり、個別指導計画を作成・活用し、児童・生徒がそれぞれの指導目標を達成できるよう指導内容や、手立てを工夫していくことがよりいっそう求められている。

都立特別支援学校における個に応じた指導の基盤となる個別指導計画が、日々の授業の中でどのように活用されているのか。本部会（聴覚障害・肢体不自由・病弱特別支援学校）の教育研究員の所属校（以下、「所属校」という。）における実情について話し合ったところ、指導目標や指導の手立て、目標に対する評価規準が教員間で十分に共有されていないことが明らかになった。

このことの背景として、個別指導計画の作成は定着しているが、指導目標や評価が具体的になっていないことや、指導目標や評価を共有するための打ち合わせ時間の確保が困難であるといったことが考えられる。また、個別指導計画や年間指導計画、週ごとの指導計画、学習指導案など、計画段階の書式は各学校で工夫されているが、授業改善に向けた評価のための書式や方法の工夫は、教員一人一人に任されているといった現状がある。

そこで、本部会では、集団指導を行う際に複数の教員が、指導目標や指導の手立てを共有し、児童・生徒の学習状況を適切に評価できるツールを開発することで、個別指導計画に基づく日々の授業の充実・改善を図るための仕組みをつくりたいと考えた。

具体的には、複数の教員が指導目標と指導の手立てを共有し、児童・生徒の学習状況を適切に評価するツールとして「評価シート」を開発・活用することにより、個別指導計画が日々の授業に反映され、より個に応じた授業が展開されると思った。また、複数の教員でチームを組んで指導に当たる（チーム・ティーチング）ことが多い特別支援学校において、「評価シート」を教員間で共有することにより、指導目標や指導の手立て、学習内容、評価の規準などの見直しを図ることができ、授業改善につなげることが期待できる。

このように、「評価シート」を効果的に活用することにより、個別指導計画に基づく適切な指導を組織的に行うことができ、そのことが児童・生徒一人一人の成長と教員の専門性の向上につながることを願い、本研究主題を設定した。

## II 研究の視点

個別指導計画が共有されにくい背景として、①日々の授業の計画・評価を行う際に個別指導計画の指導目標・指導の手立てを参照することが少ない、②指導目標や指導の手立てが抽象的である、③チームティーチングでは主たる授業者（以下「T1」と記す。）以外の教員がT1に依存的になりがちな傾向があり、児童・生徒へ対応が指導の補助や児童・生徒の安全面の管理だけに終始してしまう傾向がある、④指導目標や手立てが抽象的なため、評価が教員の主観に影響されやすいといったことが考えられる。

このような現状を踏まえ、「個別指導計画に基づく目標、手立て、評価規準が共有され、適切な評価が行われること」と、「その評価を組織的に共有し、見直しを図ることで、授業改善を行うこと」に、「評価シート」の活用の視点を当てた。

## III 研究の仮説

日々積み重ねる授業において、複数の教員間で常に指導目標、指導の手立て、適切な評価を共有し、授業改善を実践し続けるためには、①短時間で具体性のある評価ができるとともに、②児童・生徒一人一人の評価を教員間で共有でき、授業改善に役立てることのできるツールの開発が必要であると考えた。

そこで、本研究では、単元における児童・生徒の実態や指導目標、1単位時間ごとの指導目標、手立て、評価等の指導の経過全体を確認できる「評価シート」を開発し、チームティーチングによる、日々の授業の改善・充実を図ることとした。

この「評価シート」が日常的に活用されることにより、集団授業における指導目標や手立て、評価等が教員間で効率よく共有され、児童・生徒一人一人の学習状況に適した指導目標や手立てが見直され、より個に応じた授業が展開されるようになるであろうと考えた。

## IV 研究の方法

### 1 「評価シート」の研究・開発

#### (1) 個別指導計画の課題把握

本部会の教育研究員が所属する各学校の個別指導計画の書式や作成方法、個別指導計画の活用状況から、個別指導計画に関する課題を整理した。

#### (2) 「評価シート」の検討

個別指導計画の活用状況における課題に基づき、「評価シート」の開発を行う。教育研究員の所属する障害種、学部、教育課程で試案を作成し、それを基に、教育課程、教科、単元、学習グループの規模などを具体的に想定しながら、シートの書式、形態、作成方法の検討を行った。

### 2 検証授業の実施

#### (1) 所属校において開発した「評価シート」を、教育研究員が実際に試行する。授業後の評価から、「評価シート」の実用性と個別指導計画との関連性、評価の客觀性、共有する際の効率性などについて検討し、改善を加えた。

#### (2) 教育研究員及び所属校の協力者（教育研究員以外の教員）が、「評価シート」を使用し

た検証授業を実施する。検証事業を実施した後に、「評価シート」を活用して指導に当たった複数の教員間で、児童・生徒の学習状況の評価を共有する。「評価シート」を基に、授業の改善及び指導目標や指導の手だての見直しについて協議した。

(3) 検証授業は次のとおり実施した。

実施校	学年 (児童・生徒数)	教育課程・教科等・単元	時数	備考
A校	小学部1・2年 (5名)	自立活動を主とする教育課程 「国語」 「ホットケーキできあがり！」をみんなで読もう	6	事例 1
B校	中学部1年 (4名)	準ずる教育課程 「国語」 ユニバーサルな心を目指して	8	事例 2
C校	中学部1～3年 (10名)	自立活動を主とする教育課程 「国語」 物語「スイミー」	6	
D校	中学部1～3年 (8名)	自立活動を主とする教育課程 「音楽」 鳴らしてみよう	8	
E校	高等部1～3年 (5名)	自立活動を主とする教育課程 「生活単元学習」 ドライフラワーを作ろう	3	
F校	高等部1～3年 (9名)	自立活動を主とする教育課程 「体育」 サーキット運動	3	

※上記以外にも検証授業を行った。

### 3 検証の方法

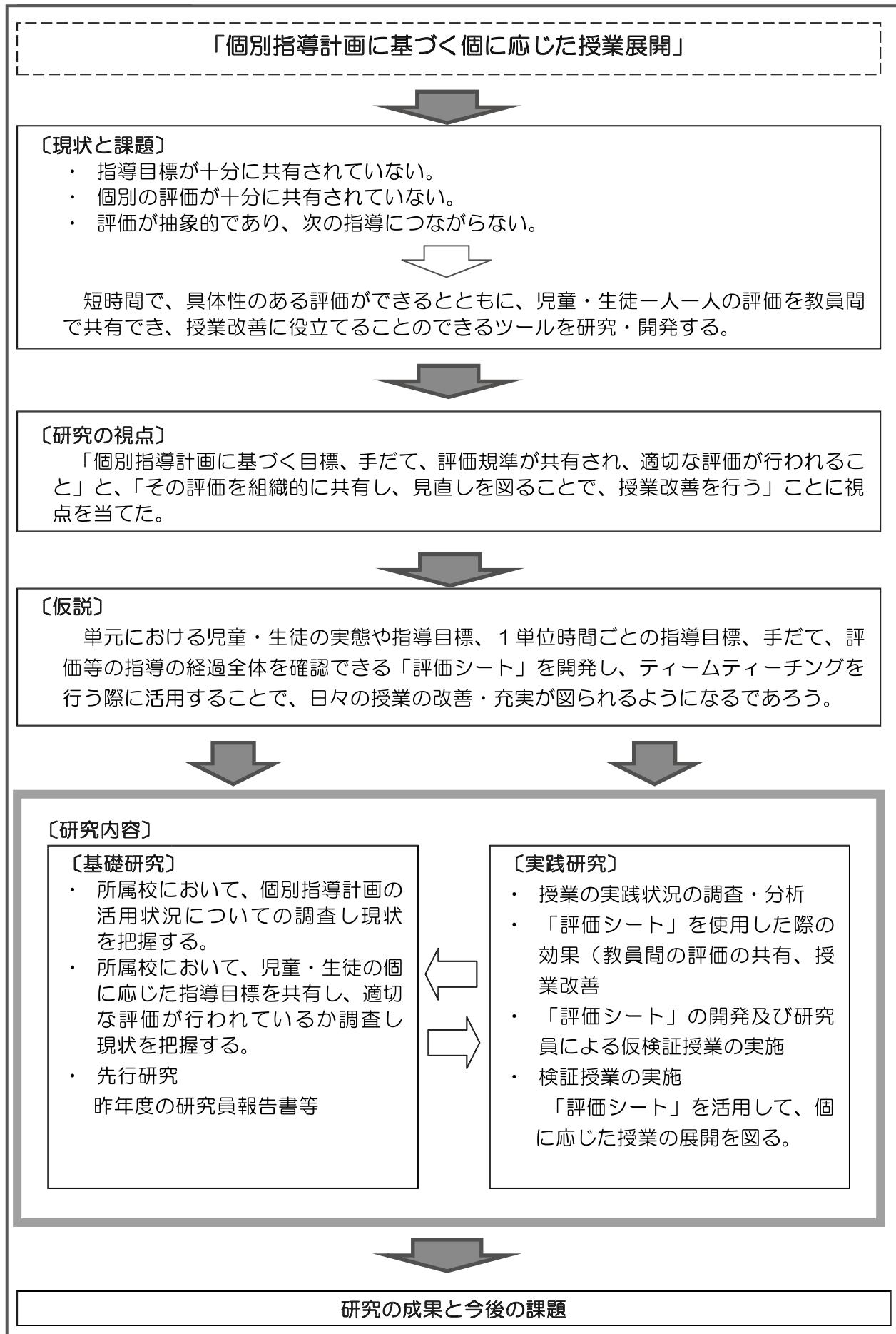
(1) 検証授業に基づく効果検証

事例研究の対象となる児童・生徒を検証授業ごとに抽出し、「評価シート」を作成し、授業観察を行った。また、教員間の共有状況や、目標や手だて等についての見直し、授業改善につながったかどうかについて検証した。

(2) 検証授業前後のアンケート調査に基づく検証

検証授業を行った所属校の協力者に対して、検証授業の前後に、個別指導計画の活用状況についてのアンケート調査を実施した。また、併せて「評価シート」の書式や活用方法等についても意見を聞き、より有効な活用方法についての検討を行った。

図1 研究構想図



## V 研究の内容

### 1 現状と課題

「個別指導計画に基づく個に応じた授業展開」について、教育研究員の所属校の個別指導計画の活用状況や、個に応じた授業の展開などに関する問題点をあげ、分類・整理して課題を明らかにした。

#### (1) 現状の把握

所属校においては、例えば、①児童・生徒の実態の把握が担当教員の主観になりやすく、指導目標や指導の手立てが他の教員に伝わりにくいこと、②教員間に捉え方の違いがあり、授業における児童・生徒一人一人の重点課題を教員間で共有できていないこと、③指導目標が具体的ではないため、何に基づいて「できた」または「課題がある」と評価したらよいか分からること、④評価が、指導を担当した教員の主観になりやすいこと、⑤授業ごとの学習状況の評価が明確でないため、学習の積み上げの確認ができないこと、⑥評価規準が明確でないため、客観的な評価ができず、次の指導につながらないことなどの改善課題があるということが分かった。

また、学級担任（個別指導計画を作成する教員）と教科担当教員（教科の学習指導計画を作成する教員）とが、児童・生徒一人一人の指導目標や手立てについて話し合う時間がとれないこと、指導にあたる複数の教員間で評価の規準を共有し指導にあたるという意識が定着していないこと、担当学年であっても学習集団が異なると直接的に関わることが少なく実態把握が難しいこと、毎回の授業においてT2が頻繁に代わるため、児童・生徒実態や指導目標について共有する場が設けにくい状況があることなどが分かった。

このような所属校の現状の把握から問題点を次の3点に整理した。

- ア 個別の指導目標が教員間で十分に共有されていない。
- イ 個別の評価が教員間で十分に共有されていない。
- ウ 評価が抽象的であり、次の指導につながらない。

#### (2) 課題の把握

このような状況を踏まえ、チーム・ティーチングにおいて個別指導計画に基づく個に応じた授業展開を行うためには、短時間で具体性のある評価ができるとともに、児童・生徒一人一人の評価を教員間で共有でき、授業改善に役立てることのできるツールを研究・開発する必要があると考えた。

### 2 「評価シート」の開発

#### (1) 「評価シート」の開発に当たっては、次の点に配慮し、作成した。

- ・ 単元における指導目標や指導の手立てが明確になるようにする。
- ・ 単元における児童・生徒の変化がわかるように、単元ごとに作成する。
- ・ 指導目標にそった客観的な評価ができるようにする。
- ・ 一枚の「評価シート」で、一人一人の学習の経過が見えるようにする。
- ・ 指導目標や指導の手立てを見直すことができる。
- ・ 学習状況による指導の変化がより明確になる。

また、「評価シート」の記入にあたっては、留意事項を次のとおりとした。

- ・ 指導目標は学習内容、程度、動作などを具体的に記載する。
- ・ 手だては教材の示し方や、補助の部位、タイミングなど具体的に記載する。
- ・ 評価規準は程度や表出・動作などを限定し、客観的に評価できるようとする。

例えば、自立活動を主とする教育課程及び知的障害を併せ有する児童・生徒の教育課程については、「評価シート」に書かれた児童・生徒の具体的な指導目標が十分に達成できた場合には「◎」、達成できた場合には「○」、課題が残る場合は「△」と評価することとした。指導目標としてあげた内容を授業中に何回提示し、そのうち何回できたかを記録することにより、客観性を保てるようにした。また、準ずる教育課程においては各教科の評価規準に基づき、一人一人の指導目標について、評価項目ごとに同様に「◎」、「○」、「△」と評価するような工夫をするようにした。

日	指導目標	回数	評価
本時の目標	目の前の提示物をよく見る(3秒以上注視する)。	3／4	○
月 (個々の目標)	自分から具体物に手を伸ばし、触れる。	3／3	◎

## (2) 「評価シート」の活用手順

### 【授業前】

T 1 が、個別指導計画やT 2・T 3 から情報を得て、単元における児童・生徒の実態と目標を記入する。それを基に本時の目標を立てる際には、どのような学習内容で、関心・意欲・態度はどうあるべきか、何回できたか、細かな表出・動作等について具体的に記入する。また、手だてについても、できる限り具体的に記入する。T 2 に配布して教員間で指導目標や指導の手だて、前回の授業における学習状況の評価を共有する。評価規準についても授業前に共有を図る。

### 【授業中】

授業の導入部分に、一人一人の指導目標について児童・生徒と共に確認する機会を設ける。教員は作成した「評価シート」を基に、指導目標や手だて、評価規準を確認しながら指導に当たり、評価を隨時記録していく。授業のまとめに、本時の指導目標に対しての学習状況について、児童・生徒共に共有する時間を設ける。

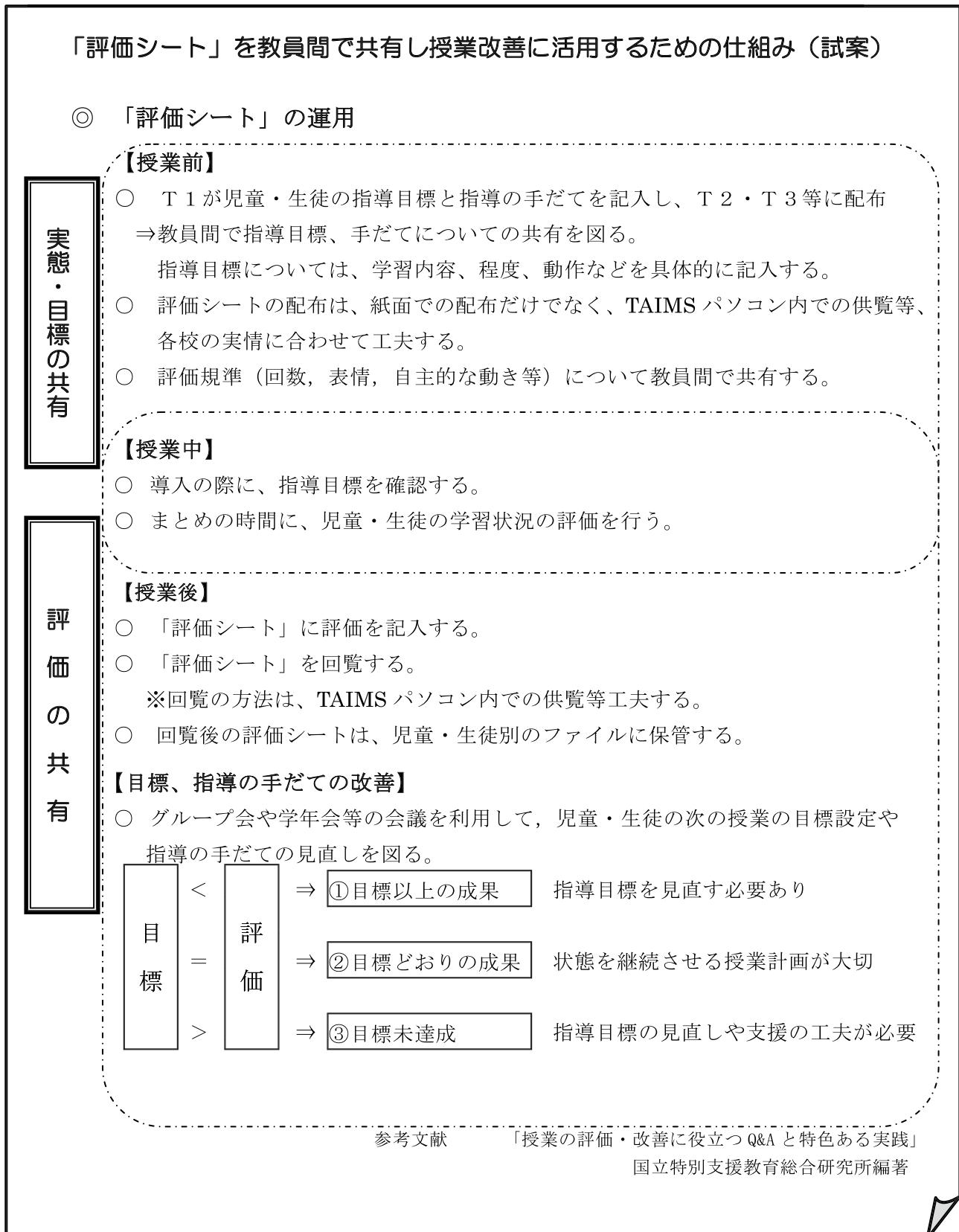
### 【授業後】

授業後、T 2 は児童・生徒の指導目標にそった学習状況の評価を「評価シート」へ記入する。または、授業のまとめの際に行つた評価をT 1 が「評価シート」に記入する。児童・生徒の学習状況の評価が記入された「評価シート」を教員間で回覧し、児童・生徒の現時点での学習状況を共有する。グループ会や学年会などの会議を利用して、「評価シート」の学習状況の評価を基に、児童・生徒の指導目標や指導の手だてについて見直しを図る。

## 3 教員間で児童・生徒の評価を共有するための仕組み（案）の構築

ティームティーチングを行う場面において、「評価シート」を効果的に活用するために「教員間で児童・生徒の学習状況の評価を共有するための仕組み」の試案を次のとおりまとめ、検証授業を行つた。

図4 「評価シート」を教員間で共有し授業改善に活用するための仕組み（試案）



#### 4 検証授業の実施

所属校の各学部、各教育課程（準ずる教育課程、知的障害を併せ有する児童・生徒の教育課程、自立活動を主とする教育課程）の教員に対して、本部会で作成した「評価シート」と、「評価シートを教員間で共有し授業改善に活用するための仕組み（試案）」を提示して、検証授業の実施について協力を依頼した。

検証授業として次に、二つの教育課程を例示する。

##### (1) 検証授業1 肢体不自由特別支援学校 自立活動を主とする教育課程

###### ア 検証の手順

###### 【授業前】

「評価シート」の単元における児童の実態と単元における児童の目標はT 1が記入し、指導略案を基にT 2、T 3が担当する児童について、「評価シート」の本時の目標と指導の手立ての記入を行い、事前に打ち合わせを行った。

###### 【授業中】

授業の導入部分で、児童一人一人について、本時の目標と指導の手立てを確認する場面を作り、「評価シート」に記入した内容を、児童に分かりやすい表現で教員が発表した。「評価シート」の手立てを基に一人の児童に対して複数の教員で支援に当たり、指導目標にある学習内容を行った回数を記録した。授業のまとめでは、評価とその他気付いた様子についても発表した。また、本時の評価を基に、継続する課題や、新たな目標などについても児童と共に発表形式で確認した。

###### 【授業後】

「評価シート」の評価を記入した後に教員間で回覧し、共有した。

###### イ 考察

「評価シート」の作成にあたり、T 2、T 3はこれまで以上に学習指導案を深く読み込むようになり、T 1の意図や指導目標の重点をより理解して、指導目標を立てることができた。本グループでは一人の児童に対して二人の教員が連携して支援する場面が多くある。例えば、児童Aに対して、T 2が体幹を保持し、T 3が当該児童の手元を介助し学習活動を行うなどの場面がある。この時に、児童の主体的な動きを引き出すためには、T 2、T 3は児童Aの重点課題や、具体的な指導目標、それを達成するための指導の手立てを共有し、同じ考え方で支援にあたらなければならない。そのため、「評価シート」を活用して、具体的な目標や手立てを事前に共有することで、対象児童への介助がスムーズにできた。また、T 2、T 3が入れ替わった場合でも、児童Aに対して同じ手立てで支援をすることができ、児童Aは安定して活動に取り組むことができるようになり、少しづつ集中する時間が延びてきている。

また、指導目標にある学習場面を複数回設定し、どの程度達成できたのかを明確にしたことにより、児童Aの評価規準が明確になり、評価しやすくなり、次の授業へ向けての指導目標の見直しがしやすくなった。

肢体不自由特別支援学校 自立活動を主とする教育課程 小学部〇〇グループ

**国語 指導略案 「『ホットケーキできあがり！』をみんなで読もう」**

対象：小学部1年児童

単元の指導目標：パネルシアターに注目し、ホットケーキ作りの物語を理解する。

物語の中出てくる擬態語に興味・関心を示す。

パネルシアター「ホットケーキできあがり！」を題材に、ホットケーキ作りの時に必要な道具や操作、手順について理解する。

物語の内容と自己の経験を結びつける。

単元の指導計画（全6単位時間）

目標	
1・2	パネルシアターに注目し、物語を聞く態度を身に付ける。 道具の名称や擬態語など、普段使わない単語に興味関心を示す。
3・4	パネルシアターに注目し、物語を聞く。 道具の名称や擬態語などから気に入った単語や動作を見つける。
5・6	パネルシアターに注目し、自分が気に入った単語や場面等に期待感を持ち、物語を最後まで聞く。 自分の気に入った言葉や場面を選択できる。道具の名称を聞き、具体物を選択する。

本時の展開

時間	児童の活動	指導の手立て	教材・教具
	今日の目標の確認	・評価シートを基に、個々の児童の本時の指導目標を分かりやすい表現で発表する。	評価シート
5分	パネルシアターでホットケーキ作りの物語を鑑賞する。	・パネルシアターに注目できるよう、姿勢保持や視覚支援を行う。 ・児童の表情や視線を捉え、言葉や場面で注目しているところがあるかどうかを観察する。	
25分	①おもちゃを使い、お店で材料を買う練習をする。 ・買うものを選ぶ。 ・お金（コイン）を渡す。 ・材料を受けとる。 ・店員に「毎度ありがとうございます。」と言ってもらう。  ②おもちゃを使ってホットケーキ作りの手順を知る。  ・小麦粉をボールに入れる。 ・牛乳パックを持ってボールに牛乳を注ぐまねをする。 ・卵を割るまねをする。 ・泡だて器で混ぜるまねをする。 ・生地をお玉でくうまねをする。 ・皿に乗せるまねをする。	・T1は進行、T2は衣装を着て店員役、T3は買い物する児童の介助を行う。 ・買い物は一人ずつに行う。買いたいものを具体物や写真カードを使って2～3択で選ぶよう促し、店員役のT2とのやりとりを支援する。  ・ホットケーキ作りは、一人1～2の手順を担当して行う。やりたい手順を具体物やパネルの場面から選択するよう促し、必要に応じて姿勢や動作の支援を行う。 ・動作の合図となる言葉を決めて、一緒に言いながら行うことで、動作とその意味や内容を結びつける手がかりとする。 <b>【どうぞ】</b> お金（コイン）を渡す。 <b>【毎度ありがとうございます】</b> おつりをもらうために手を伸ばす、握る。 <b>【さらさら】</b> 粉（小麦粉）を入れる。 <b>【ジャー】</b> 液体（牛乳）を注ぐ。 <b>【コンコン、パカ】</b> 卵を割る。 <b>【ぐるぐる】</b> 泡だて器で混ぜる。 <b>【トローリ】</b> お玉でくう。 <b>【できあがり】</b> 皿に乗せる。	・材料や道具の模型 ・店員の衣装 ・写真カード
5分	パネルシアターでホットケーキ作りの物語を再度鑑賞する。	・児童が経験したやりとりや動作をパネルシアターにし、同じ言葉や動作を使って演じる。	・パネルシアター

図5 評価シート例（事例A校）

評価シート		【国語】小学部1年 児童A		
<p><b>単元における児童の実態</b></p> <p>注視を続けることは難しいが、目前に提示されたものを見て手を伸ばすことができる。</p> <p>教員の声がする方向に視線を向けることがある。</p>				
<p><b>単元における児童の目標</b></p> <p>1.5m先のパネルシアターに注目して、教員の話を聞く。</p> <p>好きな音を見つけ、それを手がかりに道具の名称や使い方に気付く。</p>				
<p>評価規準 ◎：十分達している ○：達している △：課題が残る</p>				
日		指導目標	回数	評価
1	本時の目標 (個々の目標)	目の前の提示物をよく見る(3秒以上注視する)。	3 / 4	○
		自分から具体物に手を伸ばし、触れる。	3 / 3	◎
		自分から具体物に手を伸ばし、つかむ。	2 / 3	○
		教員の声がする方へ顔を向け、注視する。	1 / 3	△
指導の手だて	あらかじめ手の緊張を緩めておく。手の衝動的な動きを抑制するようにゆっくりと介助する。視線を定めやすいよう、顔の向きを介助する。			
児童の様子	顔の向きを介助すると視線が定まりやすかった。目の前に提示されたコインを受けとり、T2と一緒にT1に手渡すことができた。			
3	本時の目標 (個々の目標)	目前の提示物をよく見る(5秒以上注視する)。	1 / 4	△
		具体物を3秒以上つかむ。	3 / 4	○
		教員の支援を受入れて具体物と一緒に動かす。	2 / 3	○
		自分の好きな言葉や場面でパネルシアターに注目する。	1 / 3	△
指導の手だて	あらかじめ手の緊張を緩めておく。手元を見ながら活動できるよう、顔の向きを介助する。			
児童の様子	首の後ろの緊張をほぐすと表情が緩み、手元に視線を向けやすかった。手元が見えると、5秒ほどつかんでいることができた。「ぐるぐる」という言葉かけに表情が緩んだ。			
5	本時の目標 (個々の目標)	目前の提示物をよく見る(5秒以上注視する)。	3 / 4	○
		具体物をつかみ、手元を注視する。(3秒以上)。	2 / 2	◎
		つかんだ具体物を自分で動かす。	1 / 2	△
		「ぐるぐる」という言葉やその場面でパネルシアターに注目する。	2 / 3	○
指導の手だて	首の後ろの緊張をほぐし、手元に視線が向くよう介助する。 手の操作の手がかりとなる言葉かけ(「どうぞ」や「ぐるぐる」等)を行う。 タイミングよく顔の向きを介助し、視線が定まったのを確認してから介助を解いて視線を見守る。			
児童の様子	教員がもった泡立て器に手を添え、「ぐるぐる」とボウルの中で回すことができた。見る時間が5分以上続くと眠くなり、顔の向きの介助が不快になって集中しにくくなる。			
<p><b>単元における最終到達状況</b></p> <p>首の緊張をほぐすことにより、手元への集中力が増した。「ぐるぐる」という言葉が気に入り、泡立て器を見せると、「ぐるぐる」という言葉を期待して手を伸ばすようになった。「ぐるぐる」という好きな言葉とともに、手元を見ようとする様子が見られた。</p>				

## (2) 検証授業2 病弱特別支援学校 準ずる教育課程の例（B校）

### ア 検証の手順

#### 【授業前】

T1が単元指導計画を基に、各教科における各生徒の実態、単元における目標、本時の目標、指導の手立てを記入し、T2と短時間打ち合わせをした。打ち合わせでは、T1の考える指導の重点や、生徒一人一人の重点課題について口頭で説明を加え、その課題を達成するための一人一人の目標と手立て、評価規準についてT2と共有した。

#### 【授業中】

T2は、「評価シート」で確認した手立てに基づき、必要に応じて生徒への声かけを行った。

#### 【授業後】

T2は、指導略案の評価規準を参考にしながら、指導目標に沿って「○：十分に達している　○：達している　△：課題が残る」の3段階で評価し、その他気付いたことについては、生徒の様子の部分に記入をした。T2は、「評価シート」をT1に提出する際に、短時間で授業の振り返りを行った。

### イ 考察

今回、「評価シート」の活用により、授業前にT1の考える指導の重点や、生徒一人一人の指導目標や指導の手立てについて、T2と打ち合わせる場が設けられ、共有することができた。それにより、生徒一人一人に対して、T2が適切な指導を行えるようになった。

T2が効果的に役割を果たすことにより、生徒もT2へ質問したりする場面も見られ、授業に対する積極性が出てくるなどの変容が見られた。

T1は、授業後の「評価シート」を受けとる際に、指導目標、指導の手立てなどの見直しについて助言を受けることができた。また、授業内容や進め方への助言をもらうこともでき、授業改善につながった。

T1は、「評価シート」を基に、具体的な指導目標や指導の手立てについて、学級担任に相談することで、その授業を担当していない学級担任も、生徒の実態をより細かく把握することができるようになり、当該生徒の他の授業においても指導の手立て等を参考にすることができた。

## 国語 指導略案 『ユニバーサルな心を目指して』

対象：中学部1年 生徒4名

単元の指導目標：言葉の意味を捉えながら筆者の考えを読み取る。

単元の指導計画(全8単位時間)

目標	
① 1・2 (2単位時間)	第一段落と第二段落を読み、「ユニバーサルデザイン」と「バリアフリー」の違いをまとめるとともに、現在の生活での問題点についてまとめる。
② 3・4 (2単位時間)	「エレベーター」の例の効果について考え、筆者の考える「ユニバーサルデザイン」にするためには何が足りないのか、また改善の方策は何かを考える。
③ 5・6 (2単位時間)	「点字ブロック」の例の効果について考え、点字ブロックの「穴」はどこにあるか、それを埋めるための「発想」は何かということについて考える。
④ 7・8 (2単位時間)	「美しいカタカナ言葉」「美しい手応えのある社会哲学」といった言葉をもとにして、筆者の考えをまとめると同時に、将来の社会のあり方について、自分の考えを記述する。

## 本時の展開

時間	生徒の活動	指導の手立て	教材・教具
25分	<p>第一段落と第二段落を読み「ユニバーサルデザイン」と「バリアフリー」についてまとめる</p> <p>① ユニバーサルデザインとバリアフリーの違いを箇条書きにする</p> <p>② ユニバーサルデザインとバリアフリーの現在の生活での問題点を箇条書きにする</p> <p>③ 発表する</p>	<p>音読の際に、漢字の読みで詰まらないよう、教科書の読みづらい漢字にふりがなを振る。</p> <p>①ユニバーサルデザインとバリアフリーについて筆者が定義している箇所を本文中から抜き出す。支援が必要な生徒には T1・T2 が本文中のポイントを絞り、考えるヒントを与える。文章化するのが難しい場合には、助詞の使い方も指導する。</p> <p>②現在の生活での問題点を教科書から探してまとめる。支援が必要な生徒には「目が見えない人や手足が不自由な人の立場になったときに困ることは何か」と具体的に問い合わせる。</p> <p>③まとめた内容を発表する。</p>	<p>①②</p> <p>教科書に例として出ているユニバーサルデザインやバリアフリーが使われているものの写真等</p>
5分	①まとめ	①生徒が発表した内容をまとめる。	

## &lt;中1国語 評価規準&gt;

国語への関心・意欲・態度

: 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、国語を尊重しようとする。

聞く・話す能力

: 目的に応じ、構成を工夫して話したり、意図を考えながら聞いたり話題や方向をとらえて話し合ったりしている。

書く能力

: 目的や意図に応じ、構成を考え、自分の考え方や気持ちを、根拠を明確にして文章に書いていている。

読む能力

: 目的や意図に応じ、内容や要旨を的確にとらえて、自分のものの見方や考え方を広くしている。

言語についての知識・理解・技能 : 伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく整えて速く書いている。

## 評価シート B

## 【国語「ユニバーサルな心を目指して】

中学部 1年 生徒B

## 単元における児童・生徒の実態

学習意欲は高い。物語を読んで自分の意見をまとめ、文章化することが難しい。自分の考えはあるが、発表することに苦手意識がある。

## 単元における児童・生徒の目標

ユニバーサルデザインとバリアフリーの違いについて説明できるようになる。ユニバーサルデザインについての自分の考えを発表する。

		指導目標	闇 窓 麿	話 す 能 力	書 く 能 力	読 む 能 力	識 解 能 力
1	本時の目標 (個々の目標)	教科書の文章から、ユニバーサルデザインとバリアフリーの違いに気付く。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>			
		ユニバーサルデザインとバリアフリーの違いについて箇条書きで対比させる。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>			
		それぞれの理由について考えをまとめる。		<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		
		ユニバーサルデザインとバリアフリーの現在の生活での問題点を箇条書きでまとめる。			<input type="radio"/>		
	指導の手だて	人に伝わるように発表することができる。(話す能力)		<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		
2	児童・生徒の様子	文章を読んで筆者の言うユニバーサルデザイン・バリアフリーについてとらえるために「そして」「ところが」「つまり」などの接続詞に着目して、教科書の本文に線を引き、文章化できるように例示する。					
		ユニバーサルデザインとバリアフリーの現在の生活での問題点について教員の説明をヒントにして箇条書きにまとめることができた。					
		ユニバーサルデザインについて考え、身の回りの具体例を挙げる。	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
		バリアフリーについて考え、身の回りの具体例を挙げる。				<input type="radio"/>	
8	本時の目標 (個々の目標)	ユニバーサルデザインの工夫について、自分なりの意見を箇条書きにする。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>			
		箇条書きの単語を文章にまとめる。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>			
		ユニバーサルデザインについて具体的な視点を例示する。工夫について、思い浮べた単語を並べさせ、そこから文章化するよう例示する。					
		ユニバーサルデザインの工夫については、教員のヒントを基に、具体物を2例あげることができた。					
指導の手だて	児童・生徒の様子	「美しいカタカナ言葉」「美しい手応えのある社会哲学」という言葉を手がかりに、筆者の考えをまとめる。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		
		将来の社会のあり方について自分の意見を記述する。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>			
		人に伝わるように発表することができる。(話す能力)			<input type="radio"/>		
		筆者の考えをまとめる際には、その部分を具体的に示す。思い浮かんだ単語をつないで文章化できるように例示をする。					
		筆者の考え方をもとにして、自分の考えを発表することができた。					

## 単元における最終到達状況

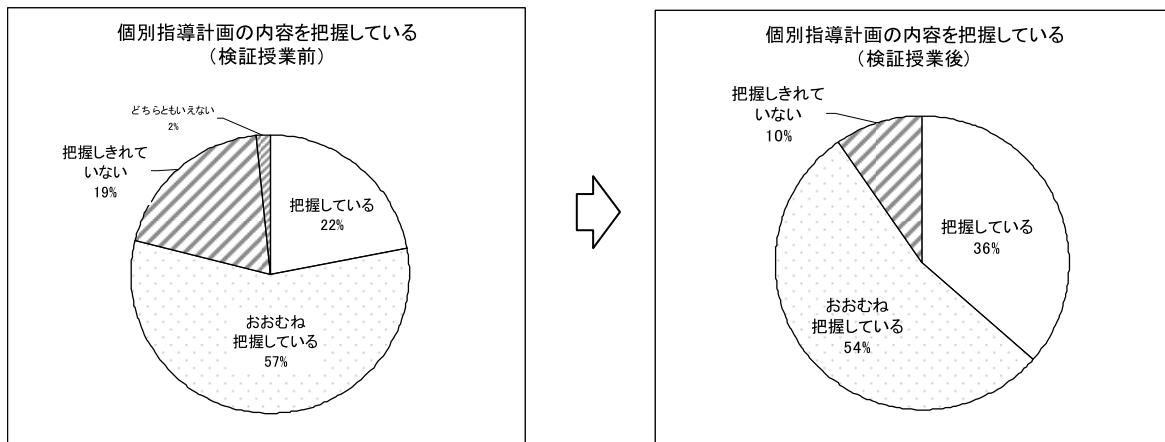
ユニバーサルデザインとバリアフリーの写真を見て、写真がユニバーサルデザインなのかバリアフリーなのか答えることができるようになった。違いについて理解している。

## 5 アンケート調査の結果と考察

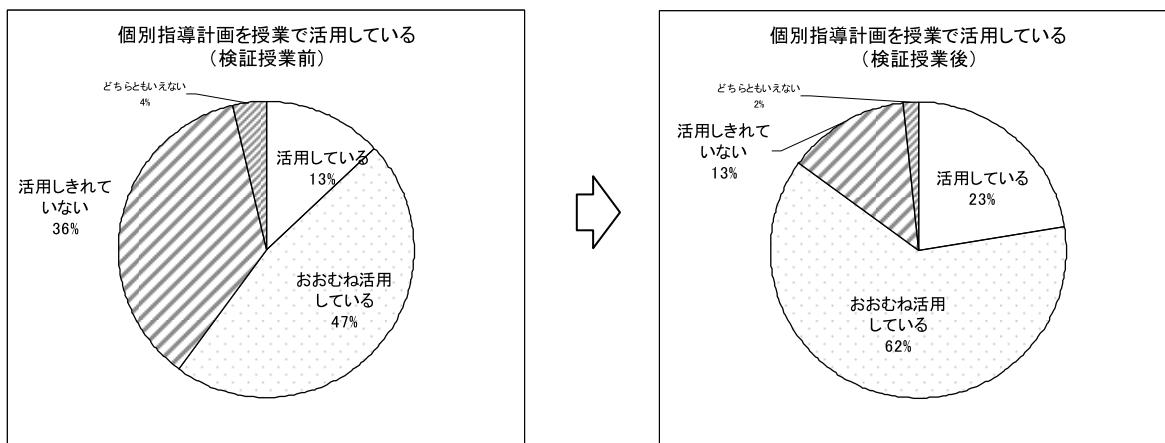
個別指導計画の活用状況などについて、検証授業に関わる教員 134名に対し、検証授業の前後にアンケート調査を実施し、個別指導計画の活用状況についての比較を行った。また、検証授業後のアンケート調査では、併せて「評価シート」の書式や活用方法等についても意見を集約した。

### (1) 集計の結果

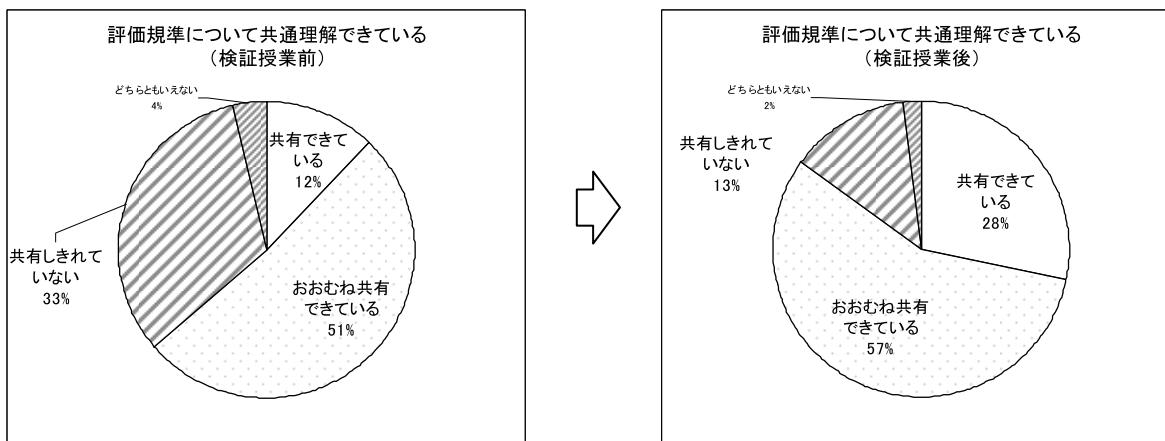
ア 集団授業において、自分が担当する児童・生徒の個別指導計画の内容を把握している。



イ 児童・生徒の個別指導計画の目標や手だてを活用している。



ウ 集団授業において、児童・生徒の評価規準について他の教員と共有できている。



ア 検証授業前に「担当する児童・生徒の指導目標や指導の手立てを把握している。」という問い合わせについては「把握している」「おおむね把握している」と回答した割合は79%であった。検証授業後に「把握している」「おおむね把握している」と回答した割合は90%であった。

イ 検証授業前に「児童・生徒の個別指導計画の目標や手立てを活用している。」という問い合わせについては「活用している」「おおむね活用している」と回答した割合は60%であった。検証授業後に「活用している」「おおむね活用している」と回答した割合は85%とであった。

ウ 検証授業前に「集団授業において、児童・生徒の評価規準について他の教員と共有できている。」という問い合わせについては、「共有している」「おおむね共有している」と回答した割合は63%であった。検証授業後に「共有している」「おおむね共有している」と回答した割合は85%であった。

エ 検証授業後に「評価シート」の使いやすさについて調査したところ、「使いやすい」等の肯定的な評価は62%であった。

オ 検証授業後に「評価シート」の作成や評価を組織的に共有する仕組みについて調査したところ、肯定的な評価は44%であった。

カ 自由意見欄には以下のような記述があった。

- ・ 今回の取組みで、他の先生方へ伝えやすくなった。
- ・ 「評価シート」があることで、生徒の学習の評価について教員間で共有ができるのでよいと思う。
- ・ 指導目標や評価の共有の手段としては、とても良い。
- ・ 授業改善の良い機会となった。どの授業もT1を中心にこのような働きかけをT2に對して行っていくと、より生徒の理解が深まると思う。
- ・ 学校介護職員などと共同して授業を行う際に、有効である。
- ・ 単元の目標と本時の目標を確認しながら評価ができてよかったです。前時までの生徒の学習状況や評価も分かりやすかった。
- ・ 具体的な指導目標は評価しやすく、T2、T3でも同様の評価ができる。
- ・ 評価シートを回覧することで、他の指導場面でも参考になった。
- ・ 今後も継続して使用していきたい。
- ・ 記入スペースが限られている中で行うものとしてはよい。日々の中で活用することを考えると、この様式くらいでないと煩雑になると思う。
- ・ 日々「評価シート」を作成し、活用することは効果がある。

## (2) 考察

ア 「評価シート」の活用後の方が、個別指導計画の内容を把握した割合が高くなっていることから、「評価シート」を活用することで、個別指導計画の内容が共有され、把握されるようになったものと考えられる。

イ 「評価シート」の活用後の方が、個別指導計画の目標や手立てを共有した割合が高くなっていることから、「評価シート」の活用により指導目標や指導の手立てが共有しやすくな

なったと考えられる。

ウ 「評価シート」の活用後の方が、評価規準について共有した割合が高くなっていることから、「評価シート」を活用することで、評価規準についても共有されることにより、より客観的な評価ができるようになったと考えられる。

エ 「評価シート」の使いやすさについては、まだ改善していく必要がある。

オ 「評価シート」の作成（記入）方法や、組織的に共有する仕組みについては、今後改善していく必要がある。

カ 「評価シート」の活用により、話し合いの機会が設けられた。また、指導目標が共有されることにより授業改善が図られるなど、教員の意識に変化が見られたと考えられる。

## VI 研究の成果

今年度は、チーム・ティーチングにおいて個別指導計画に基づく個に応じた授業展開を行うためには、①短時間で、②具体性のある評価ができるとともに、③児童・生徒一人一人の評価を教員間で共有でき、④授業改善に役立てることのできるツールに研究・開発と、それを活用する仕組みについて検討し、授業改善を図るための方策について、事例を基に検証した。

- ① 本部会で作成した「評価シート」を活用することにより、打ち合わせやシートを渡す際に短い時間で、具体的な指導目標や手立てが共有できるようになった。それにより、指導の手立てが統一され、児童・生徒に対して確実な指導ができ、児童生徒は混乱がなくなり、授業に集中する時間が長くなるなどの効果が見られた。
- ② 重度重複障害の児童・生徒については、指導の手立てを限定し、具体性のある評価をすることで、より個に応じた指導の展開へつなげることができる。また、具体性のある評価を基に、次の授業へのステップを見極めることができるようにになり、指導の系統性が生まれた。
- ③ 児童・生徒一人一人の評価を教員間で組織的に共有することにより、個に応じた指導の在り方について、教員の意識に変化が見られた。
- ④ この「評価シート」を基に、話し合いの場がもたれることで、指導目標や手立て、学習内容、評価規準等についても見直しが図られ、授業改善へつながった。また、他の時間においても参考とことができ、生徒へ指導の手立てが一つになり、児童・生徒も教員も互いに安心して学習に望むことができるようになった。

検証授業からは、A校では、T1は個々の目標、手立て、評価について見直しを行うことができ、授業改善へつながった。また、T2・T3はT1のねらいを十分に共有して指導・に当たることで、より個に応じた授業の展開が図られたという成果が得られた。また、B校では、授業の前後でT1の授業のねらいや指導目標について共有する場が設けられ、教員の生徒理解がより深まり、授業におけるT2の役割が変化し、授業の指導者が増え、より個に応じた指導が行われるようになった。

また、本研究を行う中で、所属校において「評価」の共有についての教員の意識が高まり、それによって授業の質が高まったことも、重要な成果である。

以上のことから、今回の「評価シート」のようなツールは、授業改善において効果的であ

るといえる。

今後、特別支援学校における授業で、この「評価シート」が各校の実情に合わせて見直され、幅広く活用されることを期待する。

## VII 今後の課題

「評価シート」が授業改善において有効な手段であることは、前述のとおりだが、書式や活用方法については、更なる検討と工夫が必要である。アンケートの自由意見には次のような課題を指摘する記述があった。

- ・ チェック項目が書いてあり、簡単に○や□がつけられるようなものと、メモ程度で伝達できるような「評価シート」だと、さらに活用しやすいように思う。
- ・ 授業の児童・生徒一人一人の課題を共有する上では、理想的なシートであると思う。しかし、「評価シート」を準備するための負担が大きい。
- ・ 個人のシートより授業ごとのシートのほうが授業改善しやすいと思う。
- ・ 児童・生徒が一覧になっていると見やすい。

「評価シート」の書式については、今後、各校の実情に合わせて改良され、継続的に見直され、より客観的な評価をするためのツールとしていく必要がある。また、「評価シート」を共有する仕組みについても、今後実践を重ねて更に工夫・改善していくことが必要である。

今後、都立特別支援学校において「評価シート」が日常的に活用され、集団授業において個別指導計画に基づく個に応じた授業展開が図られることを期待したい。

**資料1 評価シート**

評価シート

**【 単 元 名 】**

学年 氏名

単元における児童・生徒の実態

単元における児童・生徒の目標

評価規準 ◎：十分達している ○：達している △：課題が残る

日	指導目標	回数	評価
月 日	本時の目標 (個々の目標)	/	
		/	
		/	
		/	
		/	
月 日	指導の手立て	/	
		/	
		/	
		/	
		/	
月 日	児童・生徒の様子		
月 日	本時の目標 (個々の目標)	/	
		/	
		/	
		/	
		/	
月 日	指導の手立て		
月 日	児童・生徒の様子		



単元における最終到達状況

## 平成24年度 教育研究員名簿

### 特別支援学校

(聴覚障害教育・肢体不自由教育・病弱教育グループ)

学 校 名	職 名	氏 名
城南特別支援学校	主任教諭	坂田 千景
多摩桜の丘学園	主任教諭	岡戸 繁樹
小平特別支援学校	主任教諭	○藤原 英二
青 峰 学 園	主任教諭	土田 雅子
村山特別支援学校	教 諭	中村 尚子
大塚ろう学校	主幹教諭	◎姫野 滋子
久留米特別支援学校	教 諭	長嶋 恵利

◎ 世話人 ○副世話人

[担当] 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課

指導主事 加藤 久美子

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課

指導主事 古館 秀樹



平成 24 年度

# 教育研究員研究報告書

特別支援学級グループ

東京都教育委員会

## 目 次

特別支援学級 グループ

研究主題 「個別指導計画に基づく個に応じた授業展開  
～集団指導における個別指導計画活用シートの実践を通して～

I 研究主題設定の理由	5 1
II 研究の視点	5 3
III 研究の仮説	5 3
IV 研究の方法	5 3
V 研究の内容	5 4
1 基礎研究の内容	5 4
2 実践研究	5 6
3 所属校におけるアンケートの結果と分析	6 5
VI 研究の成果と課題	7 0

## **特別支援学級グループ 研究主題**

### **個別指導計画に基づく個に応じた授業展開**

#### **～集団指導における個別指導計画活用シートの実践を通して～**

##### I 研究主題設定の理由

個別指導計画に基づく指導の方法や内容について精査し、日々の授業の実践を分析することは、個々の児童・生徒の障害の状況に応じた指導内容・方法の精選や計画的・組織的な指導方法の工夫、及び効果的な教員間の連携を図る上で、極めて重要な課題である。特別支援学校学習指導要領総則には、「1（5）各教科等の指導に当たっては、個々の児童又は生徒の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成すること。また、個別の指導計画に基づいて行われた学習の状況や結果を適切に評価し、指導の改善に努めること。」と記されている。

また、都教育委員会は、特別支援学級における個別指導計画について、「東京都の特別支援教育」（平成19年3月 東京都教育委員会）の中で、その在り方として「個別指導計画は特別支援教育の推進を活性化するツールとして活用できる」ものであり、「個別指導計画は支援の仮説であり、この仮説に基づいて行った支援については、担任や専科教員等が授業記録を丁寧に作成し、これに基づいて学期ごとに校内委員会で評価し、多角的に検討を深めていくことも重要である」としている。

しかし、本部会の現状では、個別指導計画を作成後に見直す機会が少なく、日々の授業の中で十分に生かされていないケースが多いことが分かった。また、個別指導計画の内容はそれを作成した教員にしか分からず、他の教員と内容の確認や検討ができないままになっている場合がある。さらに、個別指導計画に基づいた授業を行う際にはどういった手立てを用いて児童・生徒に接していくのか共通理解ができないまま、それぞれの教員の考え方で支援を行ってしまう場合もある。そして、個別指導計画を日々の授業の中にどのように生かしていくのか分からず、振り返りや改善が十分でなかったりするなど、多くの課題がみられる。

本部会は、小学校・中学校の知的障害特別支援学級、情緒障害等通級指導学級と、様々な立場の教員で構成されている。知的障害特別支援学級では、学級内の児童・生徒の発達段階に差があることや、異学年の児童・生徒で編成する学習集団で授業を行う場合もあることなどから、個々の児童・生徒に常時適切な学習課題を用意することが難しいといった現状がある。また、情緒障害等通級指導学級では、年度途中からの入級などによって、対人関係に課題のある児童・生徒と学習面で課題のある児童・生徒が同じ教室で学習することもあり、一人一人の児童・生徒に合った課題の設定や、目標に対する手立ての工夫が難しいという現状がある。しかし、学級の設置形態の違いを越えて、個別指導計画を日々の授業に生かし、個に応じた指導を展開していくことは、特別支援学級の共通の課題である。

そこで、本部会では、個別指導計画と授業を効果的につなぎ、集団の授業の中で児童・生徒一人一人の教育的ニーズに対応した授業展開を行うために、指導に必要な要素を効果的に取り出し、評価・改善する方法を考えることとした。

## 研究構想図

全体テーマ：「学習指導要領に対応した授業の在り方」



### (課題)

- 児童・生徒の実態に幅があるため、個別指導計画の記載内容にばらつきがある。
- 小学校・中学校の各教科の目標だけが個別指導計画の目標となっている。
- 集団の授業の中で、個別指導計画に示された指導目標が反映されていない。
- 個別指導計画を作ることが目的となっている。



### 研究主題

「個別指導計画に基づく個に応じた授業展開」

～集団の授業における個別指導計画活用シートの実践を通して

### 【研究のねらい～課題解決のために～】

- ①目標→支援方法（手だて）→変容・評価を簡略化したツールの開発
- ②毎時の目標・評価を明確化でき、児童・生徒の成長発達の状況を共通理解できる指導案の検討
- ③学級の形態（固定・通級、知的・肢体不自由・情緒等）を問わない形式の検討
- ④児童・生徒による、自己評価可能な計画の活用
- ⑤指導の効果や課題を明らかにして、授業改善を図る様式の検討

【仮説】 集団指導において、個別指導計画活用シートを用いた授業を実践すれば、学年、発達段階、認知特性等が異なっていても、児童・生徒一人一人の学習課題に適切に対応した授業展開が実践可能となるであろう。



### 【基礎研究】

- 既存の個別指導計画の分析
- 先行研究の検討
- 個別指導計画活用シートの作成

### 【実践研究～仮説の検証～】

- ① 検証授業（2回）
- ② 研究員及び第三者による個別指導計画活用シートの検証

### 【具体的検証方法】

- ① 個別指導計画活用シートの作成
- ② 検証授業の事後に行うサブティーチャーを対象とするアンケートの実施
- ③ 研究員による、様々な教材等を通しての個別指導計画活用シートの有効性の検討
- ④ 第三者に個別指導計画活用シートの使用を依頼して検討
- ⑤ 仮説の検証：個別指導計画活用シートを使用した授業実践を積み重ね、指導の効果や課題を明らかにし、教員間の共通理解につなげることで、児童・生徒一人一人の教育的ニーズに対応した授業展開が可能となるか、検討する。



### 【研究のまとめと課題】

- 仮説の検証結果の検討
- 研究成果の今後の活用や所属校への返還方法

## II 研究の視点

研究主題設定の理由でも述べたように、個別指導計画が授業に十分に生かされていないという現状がある。その理由として個別指導計画の長期目標と短期目標と本時の目標との関連が意識されていないということがあげられる。そこで、個別指導計画を基に、本時の目標や手立てを明確にした「個別指導計画活用シート」（以下、「活用シート」という。）を作成し、活用する。それを様々な校種、障害種で、様々な教科等において活用することで、集団指導においても、個別指導計画を生かした個に応じた指導ができると考え、研究を進める。

## III 研究の仮説

仮説： 集団指導において、個別指導計画活用シートを用いた授業を実践すれば、学年、発達段階、認知特性等が異なっていても、児童・生徒一人一人の学習課題に適切に対応した授業展開が実践可能となるであろう。

特別支援学級の担任は、日々の取り組みの中で「個別の指導計画に基づいて行われた学習の状況や結果」を振り返り、適切な評価を行い、授業改善につなげることが求められている。本部会で用いる「活用シート」は、授業において、指導対象となる児童・生徒の長期目標・短期目標を踏まえた本時の目標を設定し、目標に迫るための手立てを具体的に用意することを意図している。よって、活用シートを用いた授業を積み重ねることで、個別指導計画を生かした授業実践が可能となるのではないかと考えた。

また、特別支援学級の指導形態として、複数の指導者による授業（ティーム・ティーチング）を展開することを考慮し、活用シートによって、主たる指導者と主たる指導者以外の指導者が、目標・手立てを共通理解することが大切である。指導の効果や課題を明らかにすることで、授業改善が図られ、より充実した指導へ結び付くと思われる。

以上のことから、各教科等の指導に当たり、学年や発達段階が異なる児童・生徒で構成された学習グループであっても、活用シートを用いて授業を進めることで、常に個々の目標や課題を意識することが可能となり、教育的ニーズに応えることができるのではないかと考えた。

## IV 研究の方法

### 1 基礎研究

仮説を実証するための基礎研究として、次のことを行うこととした。

○既存の個別指導計画の記載事項・記載内容の分析

○個別指導計画に関する先行研究の検討

○活用シートの作成

### 2 実践研究

仮説を実証するため、検証授業を2回実施する。

また、これと並行して、研究員及び所属校の他の教員が活用シートを利用し、所属校において実践・検証することとした。

## V 研究の内容

### 1 基礎研究の内容

#### (1) 個別指導計画の活用状況の確認と分析

本部会研究員が実際に使用している個別指導計画や他県で例示している個別指導計画に記載されている内容や活用状況について、個別指導計画（書式）を持ち寄り、活用状況及び記載する内容の確認を行った。

個別指導計画の書式は区市により異なっているが、記載されている項目はほぼ共通しており、長期目標、短期目標または単元の目標、障害による学習上又は生活上の困難を克服するための教育である自立活動の内容を踏まえた支援について記載されていることが確認できた。

次に、個別指導計画が日々の授業で十分に活用されていない要因について協議し、次のことを確認した。

- ① 学習集団を構成する児童・生徒の実態に幅があることから、記載内容を統一することが困難となり、実態に関する記載内容にばらつきが生じている。
- ② 小学校・中学校の各教科の目標だけが個別指導計画の目標となっているものがある。
- ③ 集団指導の中で、個別指導計画に示された指導目標が個々の指導に反映されていない。
- ④ 個別指導計画を作ることが目的となっている。

上記の要因のうち①、②及び④については、個別指導計画を作成する時点での課題のため、本研究では扱わないこととした。各学級では集団学習を複数の教員で指導することにより学習活動の充実を図っているが、集団指導の中で、個別指導計画の作成者が全ての授業で対象の児童・生徒を直接指導するとは限らないため、サブティーチャーとの連携が必要となるが、現状では③のように個別指導計画に示された指導目標が反映されていない。

さらに、長期目標や短期目標、そして本時の目標が必ずしも一貫性をもっていないという課題も指摘され、集団での授業においてより効果的に個別指導計画を活用するためには、個別指導計画と日々の授業とを結び付けるためのツールが必要であると考え、検討・協議をした。

#### (2) 先行研究の調査・分析

個別指導計画を日々の授業に生かすためには、個別指導計画と単元計画や毎時間の学習指導内容等とを結び付ける「ツール」が必要であるという視点から、先行研究や文献を調査し、ツール（活用シート）作成の参考とした。

#### (3) 活用シートの作成

個別指導計画が授業に十分に活かされていない現状や、長期目標や短期目標、そして本時の目標が必ずしも一貫性をもっていないという課題を受け、本部会では、学習指導案と合わせて活用できる活用シートを作成することとした。作成に当たっては、活用シートが①児童・生徒の目標や手立てを共通理解することができるようになること、②授業後に手立ての有効性や次時への申し送りを記入することにより、授業改善につなげることができるものにするすることを目標とした。次ページに作成したシートを示す。

## 個別指導計画活用シート

教科等	教科名を記入(選択)します。	】児童・生徒名 <u>      </u> 年 <u>      </u> 名前 ( )												
<p><b>個別指導計画における教科等の長期目標</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 20px;">①個別指導計画における長期目標を記入します。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 20px;">実際に児童・生徒の支援を行った人を「記入者」とします。</div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p>↓</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 20px;">②教科や学級の特性などにより、学習内容や段階、技能などの項目を適宜記入します。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 20px;">③項目について、児童の実態を○、△の3段階で選択します。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 20px;">④本時における目標を、左の欄に立てた内容に応じて記入します。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 20px;">⑤本時の目標を達成するための手立てを、具体的に記入します。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 20px;">⑥本時を通して、手立てが有効だったかを○、△の2段階で選択します。実際に児童・生徒の支援を担当した指導者が記入します。</div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <p>次時への改善につなげていきます。</p> </div> </div>														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">記入者名( )</th> <th style="width: 40%;">次時への申し送り</th> <th style="width: 50%;">手立ての有効性△(要改善)について</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td style="height: 40px;"></td> <td style="height: 40px;"></td> </tr> </tbody> </table>			記入者名( )	次時への申し送り	手立ての有効性△(要改善)について									
記入者名( )	次時への申し送り	手立ての有効性△(要改善)について												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">実態</th> <th colspan="3" style="width: 90%;">本時</th> </tr> <tr> <th></th> <th style="width: 25%;">本時の目標</th> <th style="width: 25%;">重点</th> <th style="width: 50%;">目標達成のための手立て</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td style="height: 40px;"></td> <td style="height: 40px;"></td> <td style="height: 40px;"></td> </tr> </tbody> </table>			実態	本時				本時の目標	重点	目標達成のための手立て				
実態	本時													
	本時の目標	重点	目標達成のための手立て											
<p>◎:一人できる ○:支援を受けてできる △:難しい</p> <p>☆:重点</p> <p>○:有効 △:要改善</p>														
※ <input type="checkbox"/> はT1,  は担当する指導者が記入する。		※シートの余白は、メモ欄として活用する。												

#### (4) 活用シートの記入

活用シートを短時間で効率よく記入・作成でき、かつ具体的なツールとするために、それぞれの枠に記入する文言について、次のような手順・内容を記入することとした。

##### ○授業前

- ① 個別指導計画に沿った長期目標・短期目標を抜き出す。
- ② 教科、学習集団を構成する児童・生徒の特性により、本時の項目を立てる。
- ③ 項目について児童の実態を3段階（◎・○・△）で表す。
- ④ 項目ごとの本時における目標を設定し、重点については☆印を付ける。
- ⑤ 本時の目標を達成するための手だてを具体的に記入する。

##### ○授業後

- ⑥ 手だての有効性について2段階（○・△）で記入（選択）する。
- ⑦ 手だての有効性と次時への申し送りを記述する。
- ⑧ 次時への授業改善（①～）

## 2 実践研究

### (1) 検証授業

活用シートの効果及び課題について、部員全員で検証できるよう、小学校と中学校から各一校ずつ選び、検証授業を実施した。実施した教科等は、保健体育と外国語活動である。どちらも一斉授業の形態であり、発達段階や習熟度に違いのある児童・生徒で構成された学習集団を対象に、チームティーチングを行うことが多い教科である。そのため、開発した活用シートの検証に適していると考えた。他教科においては、各研究員が各校にて授業による検証を行った。

ア 区立A中学校知的障害特別支援学級 保健体育

#### (ア) 本時の指導内容

日 時：平成24年10月29日（月）第5校時（場所：体育館）

対 象：区立A中学校1・2・3年6組（知的障害特別支援学級）

男子12名、女子5名 計 17名

授業者：T1（研究員）、T2（支援員）、T3、T4、T5

（1）単元名 バスケットボール・ポートボール

（2）単元の目標

ア 仲間と協力して運動する楽しさや喜びを味わえるようにする。

イ バスケットボール・ポートボールの基本的な技能を身に付けることができる。

ウ 決まりやルールを守り、互いに協力して安全に運動をする。

（3）学級の実態

本学級は1年生4名（男子2名、女子2名）、2年生5名（男子4名、女子1名）、

3年生8名（男子6名、女子2名）の3学級であるが、保健体育は合同の授業として

いる。様々な小学校からの卒業生があり、4月当初は人間関係を作るのに苦労している生徒も見受けられた。普段からの生活を班単位とし、日常生活を中心にいろいろな行事において自分たちでかかわりあうことによって、かなりクラスや班としてまとまりが出てきた。現在は、3年生から2年生にリーダー役をバトンタッチし、学級の中心としての自覚を促し、クラスをまとめるよう指導している。

#### (4) 単元の評価規準

①関心・意欲・態度	②思考・判断	③技能・表現	④知識・理解
①チームにおける自己の役割を自覚し、その責任を果たし、仲間と協力して練習やゲームができる。 ②勝敗や学習の結果を受け入れようとする。 ③体の調子や練習場の安全を確かめるなど、練習をする上での健康・安全に留意しようとする。	①自分の能力に適した課題を設定する。 ②課題解決のために効果的な練習の仕方を選んだり、技能の向上に合わせて効果的な練習の仕方を選んだり見つけたりする。	①バスケットボール・ポートボールの特性に応じた技能で、練習やゲームをすることができる。 ②自分の能力に適した技能について、動きのポイントを身につけ、その技能を高めることができる。	①バスケットボール・ポートボールの特性や学習の進め方及び自己的能力に適した課題の選び方、それに合わせた練習やゲームの仕方を知る。 ②バスケットボール・ポートボールのルールを知る。

#### (5) 指導計画 (25時間中の4時間目)

時	学習内容	指導上の留意点
1	オリエンテーション ボール慣れ①	・生徒の実態を把握し、バスケットボール、ポートボールへの振り分けを行う。
2	ドリブル・シュート・パス①	・ドリブルが確実にできるようになる。(2~9)
3	ドリブル・シュート・パス②	・相手に的確なパスを出すことができるようになる。(2~11)
<b>【4】</b>	<b>パス・シュート・対人技能【本時】</b>	・シュートをゴールマンのとりやすい場所に投げることができる。(2~15)
5	パス・パス→シュート	・簡単なディフェンスを自分自身が行い、攻撃側のボールを自分たちのボールにすることができる。(4、8~25)
6	ドリブル・パス→シュート①	
7	〃　　②	
8	ドリブル・ドリブルシュート①	
9	〃　　②	
10	パス・シュート・ディフェンス①	
11	パス・シュート・ディフェンス②	
12	2対1①	・ゲームに近い形に近づけていき、攻撃、防御の方法を指導する。(12~15)
13	〃　②	
14	3対2①	
15	〃　②	
16	ゲーム形式の練習①	・実際のゲームと同じ人数で行い、ゲームの方法、ルールなどに慣れていくように指導する。(16~19)
17	〃　②	
18	〃　③	
19	〃　④	
20	チーム練習、試しのゲーム①	・チームで自分達の課題を見つけ、それを解決できるよう練習を工夫することができる。(20~25)
21	〃　　②	
22	〃　　③	
23	〃　　④	
24	〃　　⑤	
25	〃　　⑥	・試しゲームを行い、できるだけたくさん得点を取ることができる。(20~25)

※上記指導計画に従い、個別の発達段階に合わせ、できる内容を工夫し指導していく。

#### (6) 本時の目標【対象…ポートボールチーム】

- ・ドリブルができる。
- ・相手に的確なパスを出すことができる。

- ・シュートをゴールマンのとりやすい場所に投げることができる。
- ・簡単なディフェンスを自分自身が行い、攻撃側のボールを自分たちのボールにすることができる。

#### (7) 本時の展開

	学習活動	指導内容・手だて	評価
導入 (15分)	① 整列 ② 準備運動・補強運動 ③ 挨拶 ④ 10分間走	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 縦・横が揃っているか確認するよう声を掛ける。</li> <li>○ 学級委員2名を中心に準備運動をさせる。その後、補強運動(腹筋・背筋・腕立て・バービースクワット)を行う。</li> <li>○ 学級委員に号令をかけるよう指示する。</li> <li>○ グループ走のルールを指導する。</li> <li>○ 走っている最中も個別に声をかけ、遅れ始めた生徒には、追いつく目標をもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伸ばすポイント、曲げるポイントを意識できているか。〔技・表〕</li> <li>○ 大きな声で挨拶ができるか。〔関・意・態〕</li> <li>○ 指示されたように行動できているか。〔関・意・態〕</li> </ul>
グループ(バスケット・ポート)に分かれて練習。以下はポートボールの授業展開のみを掲載。			
展開 (30分)	⑤ パス練習 ⑥ シュート練習 A ・ディフェンスなしのシュート練習 ⑦ シュート練習 B ・ゴール前にディフェンスをつけた練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 二人組になり、パス練習を行う。(チエスト・バウンズ)</li> <li>○ できるだけ相手の取りやすいパスを出すよう意識させる。</li> <li>○ ドリブルを確実に行い、できるだけはやくシュートをすることを意識させる。</li> <li>○ シュートはゴールマンがとりやすい位置に投げることを意識させる。</li> <li>○ ゴール前にディフェンスをつけ、ディフェンスをかわしてシュートを行う。</li> <li>○ ディフェンス側は、ボールを積極的に奪いに行くことを意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ パスは相手の取りやすい位置に出すことができたか。〔技・表〕</li> <li>○ ドリブルがスムーズにできているか。〔技・表〕</li> <li>○ シュートをゴールマンが取りやすいように投げているか。〔技・表〕</li> <li>○ ディフェンスをかわしてシュートができるか。〔技・表〕</li> <li>○ ディフェンスは積極的にボールに向かっているか。〔技・表〕</li> </ul>
まとめ (5分)	⑧ 片付け ⑨ 整理運動 ⑩ 今日のまとめ ⑪ 挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全員で協力して行う。</li> <li>○ 教員のかけ声のもとに行う。</li> <li>○ 今日の目標を達成できたかどうかを振り返らせる。</li> <li>○ 生徒に声をかけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 協力して片付いているか。〔関・意・態〕</li> <li>○ 教員の方を向いて集中して行っているか。〔関・意・態〕</li> <li>○ 大きな声で挨拶ができるか。〔関・意・態〕</li> </ul>

#### (8) 本時の評価

- ・ドリブルができたか。
- ・相手に的確なパスを出すことができたか。
- ・シュートをゴールマンのとりやすい場所に投げることができたか。
- ・簡単なディフェンスを自分自身が行い、攻撃側のボールを自分たちのボールにすることができたか。

本授業で使用した活用シートは次のとおりである。

教科等【保健体育】生徒名 3年 名前( A )

個別指導計画における教科等の長期目標

支援がなくても自分で考えて行動できる。

教科等の短期目標

- ①仲間と協力して練習やゲームができる。
- ②ポートボールの基本的な技能を身につける。

記入者名( B )

次時への申し送り	手だての有効性の△(要改善)について
ボールが手から離れた後も相手を見続けるように指導する。	ボールを投げる時に、腕は相手に向けて伸びているが、相手から目を離してしまうことが多い。

実態	本 時			
	本時の目標	重点	目標達成のための手だて	手だての有効性
ドリブルを行う。	○ ゴールに向かって真っすぐ一人でドリブルができる。		ドリブルの際に声かけや指さしをしながら進む方向を示す。	○
相手へのパス。	△ 相手に向かってパスができる。	☆	相手を見ること、腕を相手に向かって伸ばし、ボールを投げることを声かけし、できない場合は個別に練習する。	△
シュートをゴールマンの取りやすい位置に投げる。	△ ゴールマンに向かってシュートすることができます。		ゴールマンを見ること、構えている位置にボールを投げることを声かけし、できない場合は個別に練習する。	○

○:一人でできる

☆:重点

○:有効

○:支援を受けてできる

△:要改善

△:難しい

(イ) 授業者の自評

今回活用シートを導入することで、他の教員と共に理解を図ることができて、安心して授

業に取り組むことができた。特に今回のような一斉授業においては、全体の指示を出しながら、他の指導者から個別に生徒への的確な指示ができたので、個々の生徒に対して効果的な支援ができたため、これまでの授業と比較して、目標を達成できた生徒が多かった。活用シートの作成にやや時間がかかったが、授業を行う上で必要なものであれば積極的に導入していくべきであると感じた。

今後の授業でも支援シートを活用し、どういう記入をすればうまく共通理解を図りスムーズに授業を行うことができるか検証していきたい。

#### (イ) 協議

授業を参観していて有効と思える手だけについて、実際に指導した教員が有効でないと答えているケースがある。また、活用シートの使用に慣れていないことから、記載された手だけと異なる指導を行っている指導者がいた。手だけの有効性の欄については、△をつけていても次時への申し送り欄に改善点が書かれていないために、次時の指導を具体的な改善策を講じにくくことがあった。

一方、きちんと指導していたことが改善点や申し送り事項に反映されているシートについては、これまで気付かなかつたことに気付かされ、なるほどと感じることもあった。

#### (エ) 活用シートを利用してのアンケート

主たる授業者以外の授業者にはアンケートを実施し、その内容についても議論を行った。その結果、活用シートの導入についてはおおむね良いという意見であった。導入することで、個別指導計画を意識でき、その授業での指導のポイントを的確につかむことができたので、個に応じた適切な支援が行えたということにつながった。また、次時の申し送り事項・改善点の記載事項は本時の評価としても利用できるという二次的な利用方法についても発見することができた。

#### (オ) 次回の検証授業に向けての改善

今回の授業に加え、各校で実践したものを持ちより、どうすれば記入しやすくなるのか、見る人が分かりやすくなるかを検討し、実際に児童・生徒の支援を担当した指導者が気付いた点を記入できる欄を設けることとし、その他矢印の位置や、枠のレイアウトなど小修正を行うこととした。また、活用シートの記入例を作成し、汎用性をもたせ、誰でもが活用シートが使用できるようにすることとした。

### イ 区立B小学校知的障害特別支援学級 外国語活動

#### (ア) 本時の授業内容

日 時：平成24年11月20日（火）第5校時（場所：体育館）

対 象：区立B小学校仲よし学級（知的障害特別支援学級）

5年3名、6年2名 計5名（うち、本研究での対象児童は5年1名）

授業者：T1（研究員）、T2（外国語指導補助員）、T3、T4（支援員）

（1）授業名 「スペシャルカレーをつくろう！」

（2）単元の目標 野菜の名前を英語で話しながら楽しく活動をする。

### (3) 学級の実態

「仲よし学級」には学習や生活の中で様々な困難さをもつ児童が 16 名在籍している。その中で 3 名が通常の学級から転入している。

日々の学習においては、①視覚的教材を用いること、②物事のアウトラインを伝えること、③順序立てて簡潔に伝えること、④学習の見通しをもたせること、⑤行事等は事前に計画を立てること等を意識して、生活の支援や学習への手立てとしている。

16 名のコミュニケーション能力の発達段階は様々なので、生活年齢によるグループ分けは難しく、集団学習の中でそれぞれの児童の教育的ニーズに配慮した学習内容を組むことが必要となっている。

### (4) 年間指導計画

月	単元名	時間	学習内容
4月	あいさつしよう	1	hello!
		2	hello!
	自己紹介しよう	1	My name is ○○.
		2	What's your name?
5月	今の気分は？	1	how are you?
	世界の国々 「どこからきたの？」	1	world map
		2	country name
	ABC ソング	1	アルファベット
6月	数えてみよう	1	アルファベット
		2	number 1 ~ 5
	名前当てゲーム	1	number 1 ~ 10
		2	動物の名前
7月	名前当てゲーム	1	体の部位
		2	動物の名前
	体操しよう	1	UP DOWN
		2	顔の部位 1
9月	大きさ比べ	1	反対言葉
		2	反対言葉
	下さいな	1	「○○下さい」 please ○○
		2	果物の名前
10月	数えてみよう	3	number 1 ~ 15
	季節の行事	3	季節の行事を知ろう
11月	僕の家族	1	家族の名前
	スペシャルカレーを作ろう【本時】	1	野菜の名前
	好きなスポーツは？	2	I like ○
12月	楽しい季節の行事	1	様々な国の季節の行事
	ほしいものは？	2	I want ○○.

1月	Let's hukuwarai 顔を作ろう	1	顔の部位 2	
	Let's sugoroku すごろくをしよう	1	ジャンケン number 等	
2月	ゲームをしよう	1	ピンゴゲーム	
	ゲームをしよう	2	あみだくじ	
3月	わかった！	1	3 hints quize	
	あてっこゲーム	2	3 hints quize	
	スポーツ選手になろう		スポーツの名前	

#### (5) 指導の経過

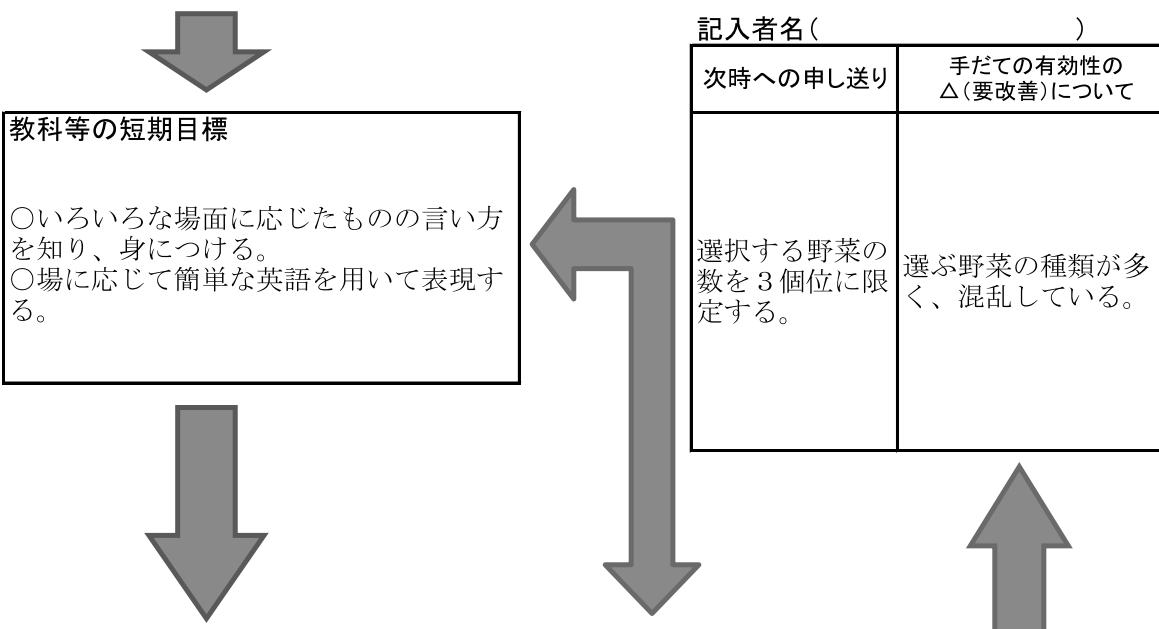
毎週火曜日の2時間目が外国語活動（英語）として時間割の中に組み込まれている。外国語指導補助員（以下、「ALT」と称する。）が配置されており、今年度は昨年度から引き続いて同じALTが配置され、年間20回外国語活動の指導に入る。ALTは、昨年度は初めての知的障害学級での英語指導で慣れないことも多くあったが、今年度は昨年度の経験を活かして担任と連携して指導をしている。ALTが来ない授業では、担任が授業を行うことになるが、その際、既習事項の確認をしたり、英語ゲームをしたり、学習DVDを用いるなどの工夫をしている。

#### (6) 本時の展開

	活動の流れ	手だて及び留意点等	
1	あいさつ 【greeting】	ALTやT1と英語で挨拶をする。	☆挨拶、握手をする。
2	歌・ダンス 【let's sing and dance】	英語の歌・手遊び歌を歌う。	★5年B児をシンギングリーダーに指名する。 ☆7曲を歌ったり踊ったりさせる。
3	読み聞かせ 【reading a picture book】	絵本「HELLOS POT」の音読を聞く。	☆T1とALTが交互に読み聞かせる。 ★T1がパペットを操作し、場面を理解しやすくする。 ☆登場人物と同じ動作をするよう促す。
4	英語で言ってみよう 【flashcard time】	色・数・果物・動物カードを見ながら発音する。	★絵カードを1枚ずつ提示する。 ☆カードをめくる速さを徐々に速め、絵カードに意識を集中させる。
5	数えてみよう 【let's count!】	「ミニトマト」を数える。	★数字カードを出しながら並行して具体物を数えさせる。
6	活動1【activity1】 野菜の名前を覚えよう	6種類の野菜の名前を覚える。	★教員と対話しながら、劇方式で学習する。 ☆具体物と絵カードで野菜を提示する。
7	活動2【activity2】 スペシャルカレーをつくろう！	店で野菜を買う場面を設定し、ほしい野菜を英語で注文する。	★ワークシート一枚ずつわたす。 ★「I want ○○.」の言い方で必要な野菜を注文する。 ★ワークシートに注文を受けた野菜を貼つていき、各自が考えた「スペシャルカレー」を完成させる。
8	あいさつ【farewell】	ALTやT1と英語で挨拶をする。	☆挨拶をしてハイタッチをする。

#### (7) 評価の観点 野菜の名前を英語で話しながら楽しんで英語活動をすることができたか

本時の指導におけるシートは次の通りである。

教科等【	】	児童名 <u>5年</u> 名前( <u>B</u> )																																												
<b>個別指導計画における教科等の長期目標</b> 英語によるコミュニケーション能力を身に付ける。 外国の生活や文化に対する理解を深めるとともに、話し相手の意向をおおむね理解する。																																														
 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <b>教科等の短期目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○いろいろな場面に応じたものの言い方を知り、身につける。</li> <li>○場に応じて簡単な英語を用いて表現する。</li> </ul> </div> <div style="width: 45%;"> <b>記入者名( )</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th style="width: 50%;">次時への申し送り</th> <th style="width: 50%;">手だての有効性△(要改善)について</th> </tr> <tr> <td>選択する野菜の数を3個位に限定する。</td> <td>選ぶ野菜の種類が多く、混乱している。</td> </tr> </table> </div> </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 10%;">実態</th> <th colspan="4">本時</th> <th rowspan="2" style="width: 10%;">手だての有効性</th> </tr> <tr> <th style="width: 30%;">本時の目標</th> <th style="width: 15%;">重点</th> <th colspan="2">目標達成のための手だて</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. あいさつ 【greeting】</td> <td>○</td> <td>自分の今日の気持ちを、考え英語で伝える</td> <td></td> <td>気持ちカードを掲示しておく。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>2. 歌・ダンス 【let's sing and dance】</td> <td>△</td> <td>リーダーとして英語で指示する。</td> <td>☆</td> <td>励ましながら、自分でできるようにする。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>5. 数えてみよう 【let's count!】</td> <td>○</td> <td>10以上の数字に興味を持ち発音する。</td> <td></td> <td>具体物を操作しながら数える。数字カードを使う。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>6. 活動1 【activity1】 野菜の名前を覚えよう</td> <td>△</td> <td>野菜の言い方に興味を持ち、ALTOの発音をよく聞いて練習をする。</td> <td>☆</td> <td>何度も繰り返す。支援者がそばで発音する。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>7. 活動2 【activity2】 スペシャルカレーをつくろう！</td> <td>△</td> <td>注文の仕方がいろいろあることを知り、新しく習った言い方を使ってみる。積極的に野菜を集め。(目標5つ)</td> <td>☆</td> <td>多様な種類の野菜を準備。初めは、支援者が付き添う。新しい言い方で注文できたら大いに褒める。事前に目標を示す。</td> <td>△</td> </tr> </tbody> </table> <div style="margin-top: 5px; font-size: small;">           ○:一人でできる ☆:重点 ○:有効            ○:支援を受けてできる △:要改善            △:難しい         </div>			次時への申し送り	手だての有効性△(要改善)について	選択する野菜の数を3個位に限定する。	選ぶ野菜の種類が多く、混乱している。	実態	本時				手だての有効性	本時の目標	重点	目標達成のための手だて		1. あいさつ 【greeting】	○	自分の今日の気持ちを、考え英語で伝える		気持ちカードを掲示しておく。	○	2. 歌・ダンス 【let's sing and dance】	△	リーダーとして英語で指示する。	☆	励ましながら、自分でできるようにする。	○	5. 数えてみよう 【let's count!】	○	10以上の数字に興味を持ち発音する。		具体物を操作しながら数える。数字カードを使う。	○	6. 活動1 【activity1】 野菜の名前を覚えよう	△	野菜の言い方に興味を持ち、ALTOの発音をよく聞いて練習をする。	☆	何度も繰り返す。支援者がそばで発音する。	○	7. 活動2 【activity2】 スペシャルカレーをつくろう！	△	注文の仕方がいろいろあることを知り、新しく習った言い方を使ってみる。積極的に野菜を集め。(目標5つ)	☆	多様な種類の野菜を準備。初めは、支援者が付き添う。新しい言い方で注文できたら大いに褒める。事前に目標を示す。	△
次時への申し送り	手だての有効性△(要改善)について																																													
選択する野菜の数を3個位に限定する。	選ぶ野菜の種類が多く、混乱している。																																													
実態	本時				手だての有効性																																									
	本時の目標	重点	目標達成のための手だて																																											
1. あいさつ 【greeting】	○	自分の今日の気持ちを、考え英語で伝える		気持ちカードを掲示しておく。	○																																									
2. 歌・ダンス 【let's sing and dance】	△	リーダーとして英語で指示する。	☆	励ましながら、自分でできるようにする。	○																																									
5. 数えてみよう 【let's count!】	○	10以上の数字に興味を持ち発音する。		具体物を操作しながら数える。数字カードを使う。	○																																									
6. 活動1 【activity1】 野菜の名前を覚えよう	△	野菜の言い方に興味を持ち、ALTOの発音をよく聞いて練習をする。	☆	何度も繰り返す。支援者がそばで発音する。	○																																									
7. 活動2 【activity2】 スペシャルカレーをつくろう！	△	注文の仕方がいろいろあることを知り、新しく習った言い方を使ってみる。積極的に野菜を集め。(目標5つ)	☆	多様な種類の野菜を準備。初めは、支援者が付き添う。新しい言い方で注文できたら大いに褒める。事前に目標を示す。	△																																									

#### (イ) 授業者の自評

本時の授業の活用シートにおける項目立ては「授業の流れ」とし、項目に従って個々の目標や手だてを具体的に記載した。活用シートの使用により、①授業者は改めて個別指導計画にある個々の目標に従って授業を計画することができたこと、②手だてを意識し授業を行うことができたこと、③活用シートを使用して事前にサブティーチャーと目標や手だてを確認できた。授業前に対象児童の目標・手だてが具体的に分かるので、T 2、T 3はT 1（主たる授業者）の計画に沿った手だてによる指導ができていた。この結果、対象の児童は本時の目標を達成することができた。

授業後、コメント欄等に書かれたチェックや記述の内容を確認したところ、T 2、T 3は主たる授業者が見えなかったところまで対象児童をよく観察し気が付いていたことが分かった。「数字に興味を示した」「ポテト・サンキューという言葉を発した」「クールダウンする場が必要」等、児童の様子や必要と思われる手だてが具体的に書かれており、個々の生徒への有効な手だてを考えることができ、次時への授業に生かしやすい。

#### (ウ) 研究員からの意見

今回は、対象児童を2人に絞り、一人の対象児童と支援者のかかわりや手だての有効性について多くの目で客観的に見ることができるようとした。参観者から見ていて有効と思える手だてと対象児童を担当した授業者の判断やコメントはおおむね一致していた。授業の中で、対象児童を担当した授業者が、活用シートに従った手だてを実践しながら言葉をかけるタイミングや座る位置等を工夫している様子が見られた。

また、活用シートの手だての欄に記述する内容については、全体に対する手だてのうち直接本人にかかわる内容であれば「手だて」として記載するべきではないか。

#### (エ) 活用シートを利用してのアンケート

授業者2名にアンケートを実施した結果、活用シートの導入についてはおおむね良いという意見であった。自由意見は次の通りであった。

##### 【1年生A児についてのT 2の意見】

個別活用シートを読み、理解をするのに時間がかかる口頭でも良いのではないか、毎日、毎時間分、活用シートがあつたら作成者も支援者も大変である。児童分毎時間活用シートのメリットもあるがデメリットも多いと感じる。

##### 【5年生B児についてのT 3の意見】

対象児童Bは、これまで英語の授業の中では特別に支援者がそばにつくことがなかったが、今回は支援者が近くにいたことで新しい言い方「I want ...」に挑戦することができた。10以上の数も不安をもたず楽しく数えることができていた。活動2では一言のアドバイスを受けた後は、一人で自信を活動ができた。支援シートのお陰で対象児童の特性がつかめ支援の仕方のイメージがもちやすかった。今後も、単元に1回はこのように支援者がついて実態把握をしなおしていくと良い。

T 2は、今回が初めて活用シートを使っての授業であった。また、T 3は研究員である授業者と共に、これまでに数回、活用シートを使って授業を行っていた。

のことから、初めて活用シートを使って支援を行う者や、初めて作成する者にとって

は一見して理解をすることが容易でないことが分かった。活用シートだけで主たる授業者の意図や目的等を伝えることが難しく、初めのうちは対象児童に支援を行うT2・T3に対し、活用シートの見方や、チェックの仕方、記述の仕方を直接伝える時間が事前に必要であると考えられる。

また、活用シートは本時における授業の指導案（略案）とともに活用することが効果的であることを確認した。

(オ) 次回の発表授業に向けての改善

今回の授業に加え、各校で実践したものを持ち寄り、記入のしやすさと、見たときの分かりやすさについて検討し、記入欄や枠のレイアウトなどの修正をした。

また、活用シートの記入例を再検討することも確認した。

### 3 所属校におけるアンケートの結果と分析

2校の公開授業と並行して、部員がそれぞれの所属校において活用シートを使用した授業を行い、アンケート調査を実施した。さらに、活用シートの実用性について検証するため、部員の所属校において部員以外の教員に活用シートを使用した授業を行ってもらい、アンケート調査を実施し、集約した。

項目は次のとおりである。

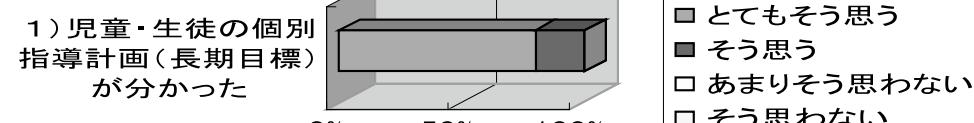
- 1) 児童・生徒の個別指導計画（長期目標）が分かった
- 2) 児童・生徒の個別指導計画（短期目標）が分かった
- 3) 児童・生徒の本時の目標を理解できた
- 4) 手だてを指導に生かすことができた

次に、その結果と考察を示す。

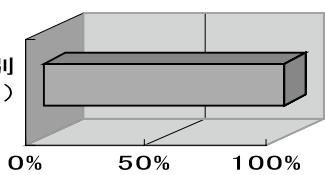
#### (1) 検証授業におけるアンケート（対象5名）

##### ア 集計結果

###### ①「個別指導計画活用シート」を用いた感想について

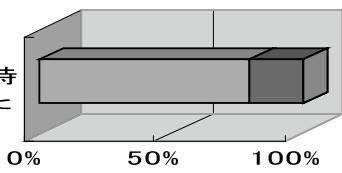


2)児童・生徒の個別指導計画(短期目標)が分かった



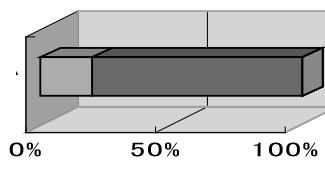
- とてもそう思う
- そう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない

3)児童・生徒の本時の目標を理解できた



- とてもそう思う
- そう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない

4)手だてを指導に活かすことができた



- とてもそう思う
- そう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない

## ②その他意見（自由記述）

- ・次時への申し送り事項、改善点の記載事項は、本時の評価としても使える。
- ・今回は手だてとして（これまでと違い）対象生徒の近くでの指導だったので、これまでと異なる言葉かけを実践することができた。
- ・児童の特性がつかめて、支援の仕方のイメージがもちやすかった。
- ・活用シートを読み、理解するのに時間がかかる。
- ・毎日、毎時間、活用シートがあったとすると、作成者も支援者も大変である。
- ・たくさんの中の児童がいる中で、45分の授業の中での個別の児童の目標が多く、活用シート全ての目標と手だてと評価をしていくことはどこまで可能なのか。また、毎時間できることなのか。

## イ 考察

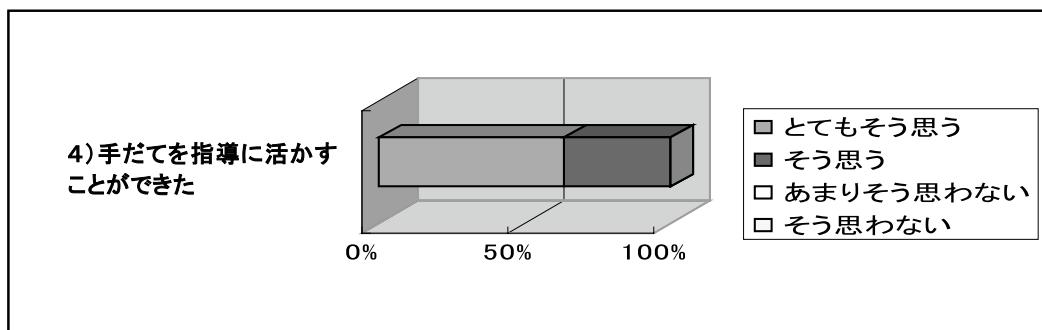
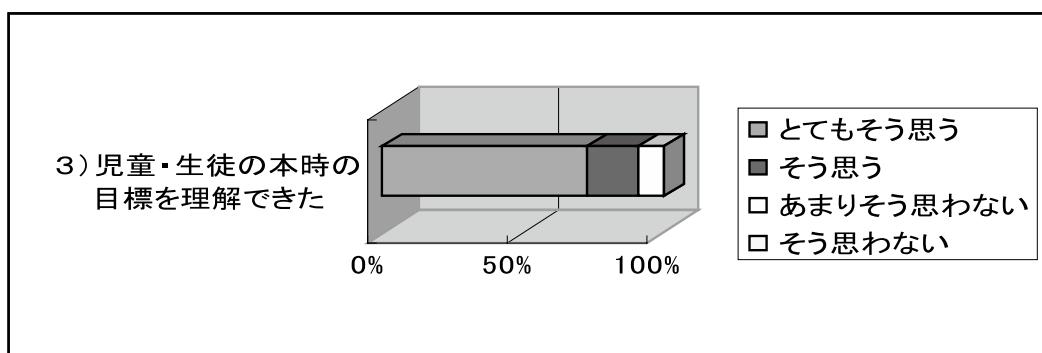
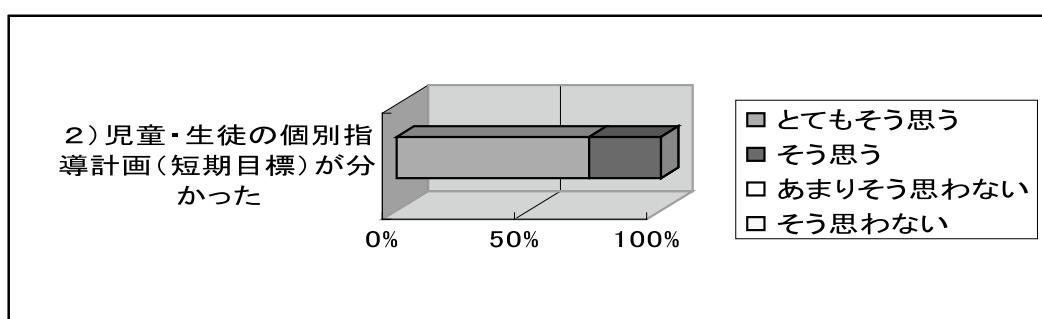
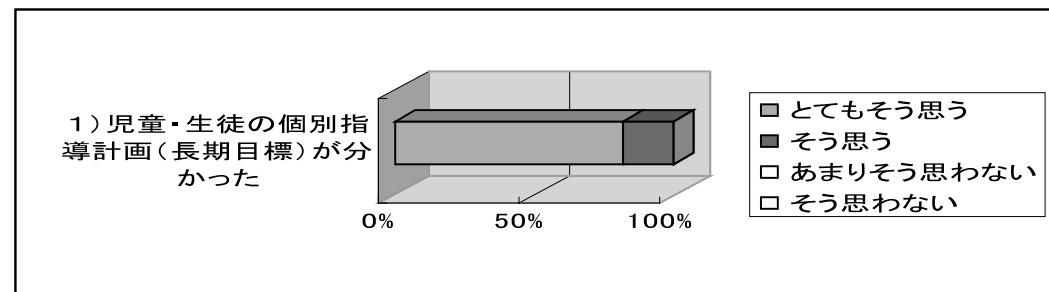
活用シートを使用することで、児童・生徒の長期目標や短期目標が共通理解できた、手だてを活かすことができたといった感想がほとんどであったことから、活用シートの使用が授業改善に有効であることが分かった。しかし、大きな集団での授業の際の活用の仕方、作成や読み込むことに時間を要することから、毎時間の作成にかかる時間確保が困難であ

るという意見もあがつた。

(2) 研究員の所属において活用シートを使って授業を行った際のアンケート（対象 11 名）

ア 集計結果

①「活用シート」を用いた感想について



## ②その他の意見（自由記述）

- ・個別指導計画や目標を十分理解、意識して指導することができた。（4）
- ・目標と手だてを細かく具体的に書けるので、書きやすかった。
- ・毎時間は難しいが、担当グループが違う時や指導補助員との打ち合わせには、活用できると思う。
- ・短期目標をより具体的に捉えることができるようにならないかと感じた。
- ・「重点」について、事前にしっかりと確認できれば、このシートをより有効に活用できると感じた。
- ・手だての有効性を記号で表すのは分かりやすいが、細かい実態は把握できない。メモを一言書けるスペースがあると良いのではないか。

## ③活用シートの改善への提案

- ・項目を決めるのが難しい。
- ・日付欄があると毎回の記録の変化が分かりやすくなるのではないか。
- ・作成に時間がかかった。毎時間作成するには、書く欄が多い。目標は一つ、二つ（授業でねらうものだけ）で良いのではないか。
- ・本時の目標と個別指導計画の目標が毎回完全に一致するわけではない。新しく発見された本時の実態から、目標や手だてが修正されることもある。

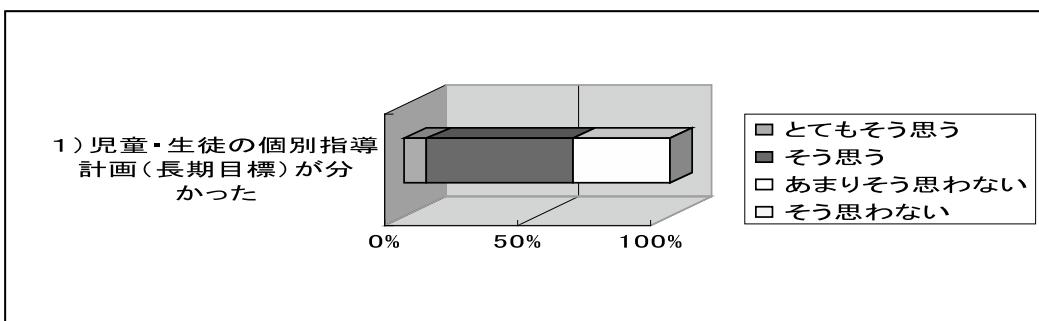
## イ 考察

研究員が授業で活用した中では、授業に携わったほぼ全ての主たる指導者以外の指導者が、児童・生徒の目標等を十分に理解して、指導に生かすことができたという感想であったことから、活用シートの有効性が確認できた。具体的な目標や手だてを理解した上で授業に臨むことで、介助員や補助員の動きも明確になる。また、実際に使用してみることで、活用シートに対する改善点が見えた。

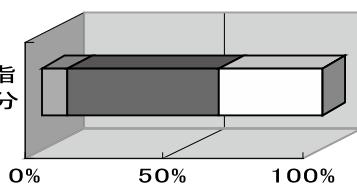
## (3) 研究員の所属校の他の教員に活用シートを使用した授業を行ってもらった際のアンケート (対象 11名)

### ア 集計結果

#### ①「活用シート」を使用した感想について

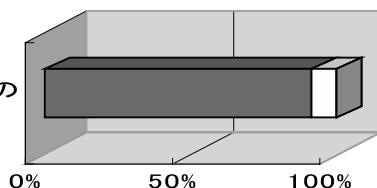


2)児童・生徒の個別指導計画(短期目標)が分かかった



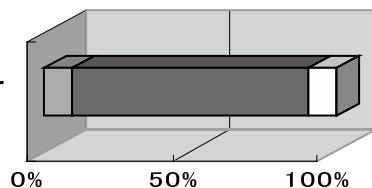
- とてもそう思う
- そう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない

3)児童・生徒の本時の目標を理解できた



- とてもそう思う
- そう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない

4)手だてを指導に活かすことができた



- とてもそう思う
- そう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない

## ②その他の意見（自由記述）

- ・ティーム・ティーチングでの共通理解を図るには、適切なシートと感じた。（3）
- ・その時間の重点が見えるのは良い。
- ・作成するのに時間がかかった。（8）
- ・毎時間作成するのは難しい。（7）
- ・普段やっていることと重なることもある。（2）
- ・活動内容や児童・生徒を絞る方法もあると思う。

## ③実際に使用してみて、活用シートの改良提案

- ・改めて個別のねらいを見直すきっかけになった。
- ・シート自体は、自分が反省したり、次につなげて改善したりすることができたので良かった。
- ・通知表とリンクできると良いと思う。

## イ 考察

学級によっては、週ごとに目標を立てていたり、同様のシートのようなものが存在する

学級があつたりすることが分かった。既に長期目標や短期目標は理解された上で授業を進めている教員にとっては、活用シートで改めて個別指導計画の内容等を確認する必要はないが、チーム・ティーチングでの教員の共通理解を図るツールとしては有効であることが分かった。また、作成に時間がかかったことや、毎回作成するのは難しいといった意見が多数出ており、記載内容や方法、書式などの改善が必要であることが明らかになった。

#### (4) アンケート結果の分析

以上の結果から、チーム・ティーチングでの授業において活用シートを使用することで、指導者間で指導内容の共有化が図られ、長期目標や短期目標、本時の目標と手だてが明確になり、目標を踏まえた指導に取り組むことができたということが分かった。指導後も、申し送り事項や改善点について記述できるので、今後の指導につなげていくことが可能である。このことから、集団の授業において活用シートを使用すれば、一人一人の教育的ニーズに対応した授業展開が可能となると考えられる。

しかし、記述量が多いために作成することや読み込んで理解することに負担を感じてしまうことや、大きな集団の授業の際には、作成の対象とする児童・生徒をどこまでにするのか等の意見や疑問点が多く出た。また、学級によっては、活用シートと同じような内容のシートを使用して授業の検討等を行っている学級もあるため、どのようにこのシートを活用していくのか、内容をどうするのか等も含め、今後更に改善や検証が必要である。

## VI 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

集団の授業の中で、個に応じた指導を達成するためには、学年・発達段階・認知特性が異なる児童・生徒で構成する集団に対する授業であっても、個々の児童・生徒にとって適切な目標を設定し、有効な手だてを考え、支援することが教育的ニーズに対応するためには不可欠である。

このことを確実に実践するために、本研究では活用シートを考案した。その主な成果としては、

- ① 活用シートを作成することで個別指導計画自体を見直し、改善する契機になったこと。
- ② 長期目標・短期目標・本時の目標の繋がりを意識して指導するようになったこと。
- ③ 指導内容や方法を構造的に把握するのが容易になり、授業改善の方向性が打ち出されるようになったこと。
- ④ 授業に携わる全ての指導者に目標が共有され、組織的な指導がなされるようになったこと。

があげられる。

## 2 今後の課題

本研究で作成した「活用シート」を使うことで、適切な目標を立て、有効な支援を行うことが容易となることが実証できた。しかし、アンケート調査では、作成のために時間や労力がかかり過ぎるのではないかという懸念が寄せられた。教育現場で広く活用されるためには、内容の精選と効率化が求められる。

また、特別支援学級は、教員だけでなく、講師・支援員など立場や職責が異なる指導者・支援者がチーム・ティーチングで授業に携わる。そのため、誰でもが気兼ねなく意見を記入できのような活用シートに改良することも必要である。

この活用シートは、校種や障害種の異なる特別支援学級でも共通して使える授業改善のツールとしても利用できるよう作成した。しかし、各研究員が持ち寄った報告では、指導形態の違い等により、成果に若干の差が認められた。各研究員が更に所属校で、日々の実践を積み重ねた中で、より良いシートに改善し、その成果を共有した上で、広めていければと思う。

今後は、研究で明らかになった成果を活用し、個別指導計画を生かした、より良い教育活動の実践のために、実践と研究を積み重ねたい。

## 平成24年度 教育研究員名簿

### 特別支援・特別支援学級グループ

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
文 京 区	林 町 小 学 校	主任教諭	平 田 裕 樹
品 川 区	第一日野小学校	主任教諭	永 代 つたえ
八 王 子 市	愛 宛 小 学 校	主任教諭	◎佐 ヴ 木 光 子
三 鷹 市	第 七 小 学 校	主任教諭	長 谷 川 華 子
町 田 市	南 中 学 校	主任教諭	○太 田 泰
清 瀬 市	清 瀬 小 学 校	主任教諭	市 川 知 明
あ き る 野 市	屋 城 小 学 校	主任教諭	宮 澤 成 通
港 区	青 山 小 学 校	教 諭	高 野 裕 久
文 京 区	第 九 中 学 校	教 諭	赤 峰 俊 彦
杉 並 区	済 美 小 学 校	教 諭	本 間 聰 恵

◎世話人 ○副世話人

[担当] 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課

指導主事 月崎 泰照



**平成24年度  
教育研究員研究報告書**

**特別支援**

東京都教育委員会印刷物登録

平成24年度第243号  
平成25年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6882  
印刷会社 株式会社 イマイシ